

新潟大学大学院保健学研究科

保健学専攻(博士後期課程)

設置計画書

(抜粋)

1. 基本計画書
2. 教育課程等の概要
3. 授業科目の概要
4. 設置の趣旨とその資料

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄								備考
計画の区分	新潟大学大学院保健学研究科保健学専攻博士後期課程の設置								
フリガナ設置者	コリウガク'ニガタ'ニ'ウ'ニガタ'ウ'キ 国立大学法人 新潟大学								
フリガナ大学の名称	ニガタ'ウ'キ 新潟大学 (Niigata University)								
大学本部の位置	新潟県新潟市五十嵐2の町8050番地								
大学の目的	大学の教育研究に対する国民の要請にこたえとともに、我が国の高等教育及び学術研究の水準の向上と均衡ある発展を図るため、新潟大学を設置し、教育研究を行うことを目的とする。								
新設学部等の目的	<p>本学大学院保健学研究科保健学専攻博士後期課程は、既設の学部並びに大学院修士課程において培ってきた保健学に関する教育研究的資産をベースに、更に専門性を深化させ、個人並びに集団における健康の保持と増進に寄与し、保健学の発展に貢献することを目的とする。</p> <p>併せて、保健学の体系化を積極的に推進し、看護ケア・検査・診断・治療に関する技術開発ができる教育研究者を育成するとともに、高度な臨床能力と実践・統率力を有する高度医療専門職者を育成することを目指す。</p>								<p>基礎となる学部等：医学部保健学科及び大学院保健学研究科修士課程</p> <p>大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例実施</p>
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	保健学研究科 [Graduate School of Health Sciences] 保健学専攻 [Doctoral Program of Health Sciences] (博士後期課程) 計	3年	6人	-	18人	博士(保健学)	平成19年4月 第1年次	新潟県新潟市五十嵐2の町8050番地	
同一設置者内における変更(定員の移行、名称の変更等)	なし								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	大学院保健学研究科 保健学専攻 博士後期課程	講義	演習	実習	計	12単位			
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員	
	新設分	大学院保健学研究科 保健学専攻博士後期課程	教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員
		計	21 (21)	10 (10)	1 (1)	0 (0)	32 (32)	0 (0)	3 (3)
	既設分	現代社会文化研究科 博士課程(前期2年の課程) 現代文化論専攻	24 (27)	15 (15)	0 (0)	0 (0)	39 (42)	0 (0)	0 (0)
		共生社会論専攻	34 (30)	21 (12)	0 (0)	0 (0)	55 (42)	0 (0)	0 (0)
		社会文化論専攻	31 (31)	20 (19)	0 (0)	0 (0)	51 (50)	0 (0)	0 (0)
		現代マネジメント専攻	7 (8)	9 (15)	0 (0)	0 (0)	16 (23)	0 (0)	0 (0)
		計	96 (96)	65 (61)	0 (0)	0 (0)	161 (157)	0 (0)	0 (0)
		現代社会文化研究科 博士課程(後期3年の課程) 人間形成文化論専攻	20 (19)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	21 (20)	1 (1)	0 (0)
	地域社会形成論専攻	18 (18)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	19 (18)	1 (1)	0 (0)	
国際社会形成論専攻	19 (19)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	20 (19)	0 (0)	0 (0)		
計	57 (56)	3 (1)	0 (0)	0 (0)	60 (57)	2 (2)	0 (0)		

学部等の名称	専任教員等						兼任 教員
	教授	准教授	講師	助教	計	助手	
	人	人	人	人	人	人	人
自然科学研究科 博士課程（前期2年の課程） 自然構造科学専攻	26 (26)	21 (21)	1 (1)	5 (5)	53 (53)	0 (0)	18 (18)
材料生産システム専攻	29 (29)	21 (21)	1 (1)	9 (9)	60 (60)	0 (0)	11 (11)
生命・食料科学専攻	27 (27)	19 (19)	1 (1)	9 (9)	56 (56)	0 (0)	12 (12)
環境共生科学専攻	33 (33)	24 (24)	3 (3)	8 (8)	68 (68)	0 (0)	9 (9)
数理・情報電子工学専攻	25 (25)	22 (22)	2 (2)	5 (5)	54 (54)	0 (0)	6 (6)
人間支援科学専攻	6 (6)	5 (5)	0 (0)	2 (2)	13 (13)	0 (0)	3 (3)
計	146 (146)	112 (112)	8 (8)	38 (38)	304 (304)	0 (0)	59 (59)
自然科学研究科 博士課程（後期3年の課程） 自然構造科学専攻	26 (26)	21 (21)	1 (1)	5 (5)	53 (53)	0 (0)	0 (0)
材料生産システム専攻	29 (29)	20 (20)	0 (0)	9 (9)	58 (58)	0 (0)	6 (6)
生命・食料科学専攻	27 (27)	19 (19)	0 (0)	9 (9)	55 (55)	0 (0)	6 (6)
環境共生科学専攻	33 (33)	21 (21)	0 (0)	8 (8)	62 (62)	0 (0)	3 (3)
情報理工学専攻	31 (31)	25 (25)	0 (0)	7 (7)	63 (63)	0 (0)	8 (8)
計	146 (146)	106 (106)	1 (1)	38 (38)	291 (291)	0 (0)	23 (23)
医歯学総合研究科 修士課程 医科学専攻	20 (20)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	20 (20)	0 (0)	0 (0)
計	20 (20)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	20 (20)	0 (0)	0 (0)
医歯学総合研究科 博士課程 分子細胞医学専攻	10 (10)	7 (7)	3 (3)	16 (16)	36 (36)	0 (0)	7 (7)
生体機能調節医学専攻	15 (15)	19 (19)	9 (9)	26 (26)	69 (69)	0 (0)	5 (5)
地域疾病制御医学専攻	7 (7)	4 (4)	3 (3)	7 (7)	21 (21)	0 (0)	4 (4)
口腔生命科学専攻	25 (25)	21 (21)	0 (0)	45 (45)	91 (91)	0 (0)	0 (0)
計	57 (57)	51 (51)	15 (15)	94 (94)	217 (217)	0 (0)	16 (16)
技術経営研究科 専門職学位課程 技術経営専攻	9 (9)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	10 (10)
計	9 (9)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	10 (10)
実務法学研究科 専門職学位課程 実務法学専攻	25 (23)	11 (10)	0 (0)	0 (0)	36 (33)	1 (1)	7 (9)
計	25 (23)	11 (10)	0 (0)	0 (0)	36 (33)	1 (1)	7 (9)
教育学研究科 修士課程 学校教育専攻	12 (12)	11 (11)	1 (0)	0 (0)	24 (23)	0 (0)	5 (5)
教科教育専攻	44 (44)	37 (33)	0 (0)	0 (0)	81 (77)	0 (0)	2 (2)
計	56 (56)	48 (44)	1 (0)	0 (0)	105 (100)	0 (0)	7 (7)
保健学研究科 修士課程 保健学専攻	28 (28)	16 (16)	2 (2)	0 (0)	46 (46)	0 (0)	5 (5)
計	28 (28)	16 (16)	2 (2)	0 (0)	46 (46)	0 (0)	5 (5)
合計	640 (637)	419 (408)	27 (26)	170 (170)	1,256 (1,241)	3 (3)	127 (129)

教員組織の概要

既設分

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計				
	事 務 職 員		401 人 (401)	18 人 (18)	419 人 (419)				
	技 術 職 員		675 (675)	133 (133)	808 (808)				
	図 書 館 専 門 職 員		21 (21)	2 (2)	23 (23)				
	そ の 他 の 職 員		27 (27)	21 (21)	48 (48)				
	計		1,124 (1,124)	174 (174)	1,298 (1,298)				
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	校 舎 敷 地	6,080,979 m ²	0 m ²	0 m ²	6,080,979 m ²				
	運 動 場 用 地	144,783 m ²	0 m ²	0 m ²	144,783 m ²				
	小 計	6,225,762 m ²	0 m ²	0 m ²	6,225,762 m ²				
	そ の 他	3,878 m ²	0 m ²	0 m ²	3,878 m ²				
合 計	6,229,640 m ²	0 m ²	0 m ²	6,229,640 m ²					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
		412,802 m ² (412,802 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	412,802 m ² (412,802 m ²)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	149 室	149 室	755 室	33 室 (補助職員 人)	6 室 (補助職員 人)				
専任教員研究室		新設学部等の名称		室 数					
		大学院保健学研究科		32 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点		
	大学院保健学研究科	35,093 [3,719] (35,093 [3,719])	6,854 [3,713] (6,854 [3,713])	3,431 [2,977] (3,431 [2,977])	584 (584)	1,977 (1977)	103 (103)		
	計	35,093 [3,719] (35,093 [3,719])	6,854 [3,713] (6,854 [3,713])	3,431 [2,977] (3,431 [2,977])	584 (584)	1,977 (1977)	103 (103)		
図書館		面積	閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数			大学全体		
		14,245 m ²	1,049	1,070,000					
体育館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体		
		6,246 m ²	陸上競技場, 第1第2野球場, サッカー・ラグビー場, テニスコート, バレーコート, プール, 馬場, グランド						
経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	国費による
		教員1人当り研究費等	— 千円	— 千円	図書購入費	— 千円	— 千円	— 千円	
	共同研究費等	— 千円	— 千円	設備購入費	— 千円	— 千円	— 千円		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円		
		学生納付金以外の維持方法の概要		運営費交付金, 寄附金 等					
既設大学等の状況	大 学 の 名 称 新潟大学								
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	人文学部	年	人	年次人	人	学士 (文学)	倍	昭和55年度	新潟市五十嵐2の町 8050番地
	行動科学課程	4	75	3年次 20	300		1.05		
	地域文化課程	4	100		400	1.06			
	情報文化課程	4	50		200	1.10			
	教育人間科学部					学士 (教育学) (人間科学) (生活環境科学)		平成10年度	新潟市五十嵐2の町 8050番地
	学校教育課程	4	180	—	720	(健康科学) (芸術)	1.10		
	学習社会ネットワーク課程	4	70	—	280		1.04		
生活環境科学課程	4	40	—	160		1.10			
健康科学課程	4	30	—	120		1.08			

既設大学等の状況	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍		
	芸術環境創造課程	4	60	—	240		1.11		
	法学部			3年次		学士 (法学)		昭和55年度	新潟市五十嵐2の町 8050番地
	法学科	4	180	5	545		1.07		
	(従前の学科) 法学科	4	0	0	150				
	法政コミュニケーション学科	4	0	0	115				
	経済学部			3年次		学士 (経済学)		昭和55年度	新潟市五十嵐2の町 8050番地
	経済学科 (昼間コース)	4	160	10	660		1.05		
	経済学科 (夜間主コース)	4	25	—	100		1.07		
	経営学科 (昼間コース)	4	105	5	430		1.05		
	経営学科 (夜間主コース)	4	15	—	60		1.08		
	理学部			3年次		学士 (理学)		昭和24年度	新潟市五十嵐2の町 8050番地
	数学科	4	35	10	140		1.09		
	物理学科	4	45		180		1.12		
	化学科	4	35		140		1.02		
	生物学科	4	20		80		1.12		
	地質科学科	4	25		100		1.05		
	自然環境科学科	4	30		120		1.10		
	医学部				3年次		学士 (医学)		昭和24年度
	医学科	6	95	5	590	(看護学)	1.00		
	保健学科	4	160	20	680	(保健学)	1.00		
	歯学部			3年次		学士 (歯学)		昭和40年度	新潟市学校町2番町 5274番地
	歯学科	6	40	5	290	(口腔保健福祉学)	1.00		
	口腔生命福祉学科	4	20	10	70		1.00		
	工学部			3年次		学士 (工学)		昭和24年度	新潟市五十嵐2の町 8050番地
	機械システム工学科	4	88	20	352		1.04		
	電気電子工学科	4	73		292		1.12		
	情報工学科	4	64		256		1.05		
	福祉人間工学科	4	50		200		1.07		
	化学システム工学科	4	78		312		1.07		
	建設学科	4	78		312		1.04		
	機能材料工学科	4	49		196		1.08		

学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	年	人	年次人	人		倍		
農学部					学士 (農学)		昭和24年度	新潟市五十嵐2の町 8050番地
農業生産科学科	4	55	3年次 10	220		1.03		
応用生物化学科	4	50		200		1.09		
生産環境科学科	4	50		200		1.07		
研究科等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	年	人	年次人	人		倍		
現代社会文化研究科 博士課程(前期2年の課程)					修士 (文学) (法学) (行政学) (経済学) (公共経営学) (経営学) (学術)		平成16年度	新潟市五十嵐2の町 8050番地
現代文化論専攻	2	15	—	30		1.09		
共生社会論専攻	2	20	—	40		1.12		
社会文化論専攻	2	15	—	30		1.26		
現代マシ'ント専攻	2	10	—	30		1.00		
現代社会文化研究科 博士課程(後期3年の課程)					博士 (学術) (文学) (法学) (経済学) (教育学)		平成16年度	新潟市五十嵐2の町 8050番地
人間形成文化論専攻	3	4	—	12		2.33		
地域社会形成論専攻	3	8	—	24		0.99		
国際社会形成論専攻	3	8	—	24		0.95		
自然科学研究科 博士課程(前期2年の課程)					修士 (学術) (理学) (工学) (農学)		平成7年度	新潟市五十嵐2の町 8050番地
自然構造科学専攻	2	63	—	127		1.06		
材料生産システム専攻	2	134	—	270		1.15		
生命・食料科学専攻	2	73	—	148		0.90		
環境共生科学専攻	2	78	—	158		0.81		
数理・情報電子工学専攻	2	108	—	218		1.03		
人間支援科学専攻	2	31	—	63		1.19		
自然科学研究科 博士課程(後期3年の課程)					博士 (学術) (理学) (工学) (農学)		平成7年度	新潟市五十嵐2の町 8050番地
自然構造科学専攻	3	17	—	51		0.70		
材料生産システム専攻	3	19	—	57		0.91		
生命・食料科学専攻	3	17	—	51		0.83		
環境共生科学専攻	3	15	—	45		0.73		
情報理工学専攻	3	21	—	63		0.80		
医歯学総合研究科 修士課程					修士 (医科学)		平成15年度	新潟市旭町通1番町 757番地
医科学専攻	2	20	—	40		1.42		

既設大学等の状況

既設大学等の状況	研究科等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍		
	博士課程					博士 (医学) (歯学) (学術)		平成13年度	
	分子細胞医学専攻	4	25	—	100		0.82		
	生体機能調節医学専攻	4	41	—	164		1.08		
	地域疾病制御医学専攻	4	16	—	64		0.79		
	口腔生命科学専攻	4	40	—	160		0.89		
	技術経営研究科 専門職学位課程					技術経営修士 (専門職)		平成18年度	新潟市五十嵐2の町 8050番地
	技術経営専攻	2	20	—	20		1.10		
	実務法学研究科 専門職学位課程					法務博士 (専門職)		平成16年度	新潟市五十嵐2の町 8050番地
	実務法学専攻	3	60	—	180		0.99		
	教育学研究科 修士課程					修士 (教育学)		昭和59年度	新潟市五十嵐2の町 8050番地
	学校教育専攻	2	10	—	20		1.20		
	教科教育専攻	2	27	—	54		1.01		
	保健学研究科 修士課程					修士 (保健学)		平成16年度	新潟市旭町通2番町 746番地
	保健学専攻	2	20	—	40		1.32		
	附属施設の概要	該当無し							

教育課程等の概要														
(保健学研究科保健学専攻(博士後期課程))														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
看護学分野	専攻共通科目													
	生命と生活の健康科学	1	2			○			5	2				
	看護学研究法	1		2		○								
	ケア技術開発法	1		2		○					1			
	保健学情報解析法	1		2		○			1					
	研究倫理	1		2		○				1				
	分野専門科目													
	小児・女性看護学特講	1		2		○			2	1	1			
	小児・女性看護学特講演習	1		2			○		2	1	1			
	地域・国際看護学特講	1		2		○			2					
	地域・国際看護学特講演習	1		2			○		2					
	保健学特定研究(看護学)	1~3	4				○		4	1	1			
小計(10科目)		-	6	16	0	0	0	0	6	2	1	0	0	
放射線技術科学分野	専攻共通科目													
	生命と生活の健康科学	1	2			○			5	2				
	看護学研究法	1		2		○								
	ケア技術開発法	1		2		○					1			
	保健学情報解析法	1		2		○			1					
	研究倫理	1		2		○				1				
	分野専門科目													
	医用物理学特講	1		2		○			2	2				
	医用物理学特講演習	1		2			○		2	2				
	生体機能情報解析学特講	1		2		○			2	1				
	生体機能情報解析学特講演習	1		2			○		2	1				
	臨床画像診断学特講	1		2		○			2					
	臨床画像診断学特講演習	1		2			○		2					
	医用画像情報学特講	1		2		○			1	1				
医用画像情報学特講演習	1		2			○		1	1					
保健学特定研究(放射線技術科学)	1~3	4				○		6						
小計(14科目)		-	6	24	0	0	0	0	7	4	0	0	0	
検査技術科学分野	専攻共通科目													
	生命と生活の健康科学	1	2			○			5	2				
	看護学研究法	1		2		○								
	ケア技術開発法	1		2		○					1			
	保健学情報解析法	1		2		○			1					
	研究倫理	1		2		○				1				
	分野専門科目													
	ゲノム・微生物病態検査学特講	1		2		○			1	1				
	ゲノム・微生物病態検査学特講演習	1		2			○		1	1				
	生体システム機能検査学特講	1		2		○			2	2				
	生体システム機能検査学特講演習	1		2			○		2	2				
	病態病理検査科学特講	1		2		○			2					
	病態病理検査科学特講演習	1		2			○		2					
	免疫・血液病態検査学特講	1		2		○			3	1				
免疫・血液病態検査学特講演習	1		2			○		3	1					
保健学特定研究(検査技術科学)	1~3	4				○		8						
小計(14科目)		-	6	24	0	0	0	0	8	4	0	0	0	
合計(38科目)			-	18	64	0		-	21	10	1	0	0	
学位又は称号	博士(保健学)		学位又は学科の分野					保健学						
卒業要件及び履修方法								授業期間等						
博士後期課程に3年以上在学し、所定の単位12単位(必修科目6単位、選択科目2単位、特定研究4単位)以上を修得し、かつ必要な論文指導を受けた上で、本大学院が行う博士論文の審査及び最終試験に合格すること。								1学年の学期区分		2期				
								1学期の授業期間		15週				
								1時限の授業時間		120分				

教 育 課 程 等 の 概 要

(保健学研究科保健学専攻(博士前期課程))

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
看護学 分野	研究科共通科目																
	国際医療保健学概論	1・2		2		○			1								
	医療情報統計科学	1・2		2		○			1								
	応用数理解析学概論	1・2		2		○			1	1							
	病態解析学概論	1・2		2		○			1								
	臨床医療心理学	1・2		2		○			1								
	医療政策論	1・2		2		○					1						
	分野共通科目																
	看護倫理学	1・2		2		○			1	1							
	医療ナラトロジー	1・2		2		○					1						
	看護教育	1・2		2		○			1	1							
	看護研究	1・2		2		○			1								
	看護理論	1・2		2		○			1								
	分野専門科目																
	基礎看護学特論Ⅰ	1		2		○			1								
	基礎看護学特論Ⅱ	1		2		○					1						
	基礎看護学特論Ⅲ	1		2		○			1								
	基礎看護学特論Ⅳ	1		2		○			1								
	基礎看護学演習	1		2			○		1	1		1					
	基礎看護学実習	1		2				○	1	1		1					
	地域看護学特論Ⅰ	2		2		○			1								
	地域看護学特論Ⅱ	1		2		○			1	1							
	地域看護学演習	1		2			○		1	1							
	地域看護学実習	1		2				○	1	1							
	国際看護学特論	1		2		○			1								
	国際看護学演習	1		2			○		1								
	国際看護学実習	2		2				○	1								
	基礎看護学特別研究	2		8		○			4	2							
	成人看護学特論Ⅰ	1		2		○			1								
	成人看護学特論Ⅱ	1		2		○			1								
	成人看護学特論Ⅲ	1		2		○			1								
	成人看護学特論Ⅳ	1		2		○			1	2							
	成人看護学特論Ⅴ	1		2		○			2	1							
	成人看護学演習Ⅰ	1		2			○		1								
	成人看護学演習Ⅱ	1		2			○		1								
	成人看護学実習Ⅰ	2		2				○	1								
	成人看護学実習Ⅱ	2		2				○	1								
	小児看護学特論Ⅰ	1		2		○			1								
	小児看護学特論Ⅱ	1		2		○			1	1							
	小児看護学演習	1		2			○		1								
	小児看護学実習	2		2				○	1	1							
	母性看護学特論Ⅰ	1		2		○			1								
	母性看護学特論Ⅱ	1		2		○			1	1		1					
	母性看護学演習	1		2			○		1								
	母性看護学実習	2		2				○	1								
	精神看護学特論Ⅰ	1		2		○			1								
	精神看護学特論Ⅱ	1		2		○			1	1							
精神看護学演習	1		2			○		1									
精神看護学実習	2		2				○	1									
実践看護学特別研究	2		8		○			1									
小計(47科目)		-	0	106	0	0	0	0	12	7	2	0	0				
放射線 技術科学 分野	研究科共通科目																
	国際医療保健学概論	1・2		2		○			1								
	医療情報統計科学	1・2		2		○			1								
	応用数理解析学概論	1・2		2		○			1	1							
	病態解析学概論	1・2		2		○			1								
	臨床医療心理学	1・2		2		○			1								
	医療政策論	1・2		2		○					1						
分野共通科目																	
医用物理学概論	1		2		○			1	1								

教 育 課 程 等 の 概 要

(保健学研究科保健学専攻 (博士前期課程))

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
放射線技術科学分野	医用放射線科学概論	1		2		○			1						
	国際放射線医療科学概論 分野専門科目	1		2		○			1						
	生体構造機能解析工学特論	1		2		○			1	1					
	生体構造機能解析工学演習	1		2			○		1	1					
	放射線物質科学特論	1		2		○			1	1					
	放射線物質科学演習	1		2			○		1	1					
	医用放射線機器科学特論	1		2		○			1						
	医用放射線機器科学演習	1		2			○		1						
	放射線保健管理学特論	1		2		○			1						
	放射線保健管理学演習	1		2			○		1						
	医用放射線科学特別研究	2		8		○			4	2					
	臨床画像診断学特論	1		2		○			1						
	臨床画像診断学演習	1		2			○		1						
	放射線治療学特論	1		2		○			1						
	放射線治療学演習	1		2			○		1						
	医用画像情報学特論	1		2		○			1	1					
	医用画像情報学演習	1		2			○		1	1					
	核医学情報学特論	1		2		○			1						
	核医学情報学演習	1		2			○		1						
	放射線診療技術科学特別研究	2		8			○		4	1					
	小計 (27科目)	—	0	66	0	0	0	0	8	4	0	0	0		
検査技術科学分野	研究科共通科目														
	国際医療保健学概論	1・2		2		○			1						
	医療情報統計科学	1・2		2		○			1						
	応用数理解析学概論	1・2		2		○			1	1					
	病態解析学概論	1・2		2		○			1						
	臨床医療心理学	1・2		2		○			1						
	医療政策論	1・2		2		○				1					
	分野共通科目														
	基礎生体情報検査科学論	1		2		○			1						
	臨床生体情報検査科学論	1		2		○			1	1					
	国際病態検査科学概論	2		2		○			1	1					
	分野専門科目														
	ゲノム検査分子生物学特論	1		2		○			1						
	ゲノム検査分子生物学実習	1		2				○	1						
	病原微生物解析学特論	1		2		○				1					
	病原微生物解析学実習	1		2				○		1					
	生体情報解析学特論	1		2		○			1						
	生体情報解析学実習	1		2				○	1						
	基礎生体情報検査科学特別研究	2		8			○		4	1					
	病態病理検査学特論	1		2		○			1						
	病態病理検査学実習	1		2				○	1						
	病態生理機能学特論	1		2		○				1					
	病態生理機能学実習	1		2				○		1					
	血液・腫瘍検査学特論	1		2		○			1						
	血液・腫瘍検査学実習	1		2				○	1	1					
	免疫病態検査学特論	1		2		○			1						
	免疫病態検査学実習	1		2				○	1						
臨床生体情報検査科学特別研究	2		8			○		4	3						
小計 (25科目)	—	0	62	0	0	0	0	8	5	0	0	0			
合計 (99科目)		—	0	234	0			28	16	2	0	0			
学位又は称号		修士 (保健学)			学位又は学科の分野			保健学							
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
(修了要件) 博士前期課程に2年以上在学し ①研究科共通科目2単位, ②分野共通科目2単位及び③分野専門科目26単位 (指導教員の指定する単位10単位を含む) 合計30単位以上を修得し, かつ必要な研究指導を受けた上, 修士論文の審査及び最終試験に合格すること。							1学年の学期区分		2期						
							1学期の授業期間		15週						
							1時限の授業時間		120分						

教 育 課 程 等 の 概 要

(新潟大学医学部保健学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手					
看護学専攻	専門基礎科目																	
	人体の構造と機能Ⅰ	1	2			○						2						
	人体の構造と機能Ⅱ	1	2			○						1						
	遺伝と分子生物学	1		2		○						1						
	人体発生学	2		2		○						1						
	医療と画像技術	1		2		○						1						
	環境と健康	2	2			○						1						
	生活習慣と健康	2		2		○						1						
	疾病の原因と成り立ち	2	2			○						1						
	疾病の予防と治療	2	2			○						3						
	栄養と健康	2				○						1						
	性の科学	3		2		○						1						
	人間工学論	1		2		○						1						
	医学と医療の歴史	1		2		○						1						
	ケアの基本理念と実際	1		2		○							1					
	医療の倫理	2	2			○												
	医療と法	2		2		○							1					
	医療と福祉	2	1			○							1					
	チーム医療	2		2		○												
	医療ボランティア論	1		2		○						1						
	医療統計学	2		2		○						1						
	介護実習	2		1				○				1						
	救急救護法	3・4		1		○							1					
	国際保健医療学	4		1		○						1						
	国際医療情報科学	4		1		○						1						
	環日本海医療概論	3		2		○												
	専門教育科目																	
	看護学原論	1	2			○						1						
	看護診断論	2	2			○						1						
	基礎看護技術演習	2	2				○						1					
	フィジカルアセスメント演習	1	1			○							1	1				
	コミュニケーション論	2	1			○							1	1				
	スキンケア論	3		1		○							1	1				
	基礎看護学実習Ⅰ	2	1					○					1					
	基礎看護学実習Ⅱ	2	2					○					1					
	基礎看護学特論	4		1		○						1						
	急性期・慢性期・終末期看護論	2	2			○						1						
	ホリスティックケア論	3		1		○							1					
	看護療法演習	3	1				○					1			1			
	異文化看護論	4		1		○						1				1		
	看護倫理学特論	4		1		○						1						
	実践看護学特論	4		1		○						1						
	看護管理論	4	1			○							1					
	看護経営論	4		1		○						1						
	看護教育論	3		1		○						1						
	看護リスクマネジメント	3		1		○							1					
	看護管理学特論	4		1		○							1					
成人看護学総論	2	1			○						1							
成人看護病態論Ⅰ	2	2			○						1							
成人看護病態論Ⅱ	2	1			○							1						
成人看護病態論Ⅲ	2		1		○						1							
成人看護ケア論	2	1			○						1							
成人看護ケア演習	2	1			○						1							
セルフケア看護論	3		1		○						1							
がん看護論	3		1		○							1						
成人看護学実習Ⅰ	3	4					○					1		1				
成人看護学実習Ⅱ	3	1					○					1						
成人看護学特論	4		1		○													
老年看護学総論	2	1			○						1							
老年看護病態論Ⅰ	2	1			○						1			1				

教 育 課 程 等 の 概 要

(新潟大学医学部保健学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
看護学専攻	老年看護病態論Ⅱ	2		1		○				1			1		
	老年看護ケア論	2	1			○			1						
	老年看護ケア演習	3	1				○		1						
	老年リハビリテーション看護論	2		1		○			1						
	老年看護学実習Ⅰ	3	2					○	1						
	老年看護学実習Ⅱ	3	2					○		1					
	老年看護学特論	4	1				○			1			1		
	小児看護学総論	2	1				○			1			1		
	小児看護病態論Ⅰ	2	1				○			1					
	小児看護病態論Ⅱ	2	1		1		○						1		
	小児看護ケア論	3	1				○			1					
	小児看護ケア演習	3	1					○		1					
	小児家族看護論	2			1		○			1					
	小児看護学実習	3	1						○		1				
	小児看護学特論	4			1		○			1			1		
	母性看護学総論	2	1				○			1					
	母性看護病態論Ⅰ	2	1				○			1			1		
	母性看護病態論Ⅱ	2	1		1		○			1					
	母性看護ケア論	2	1				○			1					
	母性看護ケア演習	3	1					○		1					
	女性健康科学論	2			1		○			1					
	女性看護ケア論	3			1		○			1					
	母性看護学実習	3	2						○						
	母性看護学特論	4			1		○				1				
	助産学原論	3			1		○					1		1	
	助産ケア論	3			2		○			1				1	
	助産ケア演習	3			2			○			1				
	助産管理学	4			1		○			1					
	セクシャルカウンセリング	4			1		○			1					
	助産学実習	4			7				○		1				
	助産学特論	4			1		○				1				
	地域看護学総論	2	1				○			1					
	家族看護論	2	1				○			1			1		
	地域看護ケア演習Ⅰ	2	1					○			1				
	地域看護ケア演習Ⅱ	3	1					○		1					
	地域看護学実習	4	3						○	1					
	新潟地域看護論	3	1				○			1					
	新潟地域看護学実習	4	1						○	1					
	地域看護学特論	4			1		○			1					
	地域保健学総論	2	1				○			1					
	地域保健管理論	3	1				○			1			1		
	健康と教育	3	1				○			1					
	産業保健論	3			1		○			1					
	国際看護学	4			2		○			1					
	地域保健学実習	4	1						○	1					
	学校保健論Ⅰ	3			1		○			1					
	学校保健論Ⅱ	3			2		○			1					
	学校保健実習	4			4				○	1					
	地域保健学特論	4			1		○			1					
	精神看護学総論	2	1				○			1					
看護カウンセリング	4	1				○			1						
精神看護病態論Ⅰ	2	1				○			1						
精神看護病態論Ⅱ	2			1		○			1						
精神看護ケア論	3	1				○			1						
精神看護ケア演習	3	1					○			1					
リエゾン精神看護論	4			1		○				1					
精神看護学実習	3	2						○							
精神看護学特論	4			1		○			1			1			
チーム医療実習	3	1						○	1						

教 育 課 程 等 の 概 要

(新潟大学医学部保健学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
看護学専攻	看護療法実習	3	2					○	1						
	看護研究方法論	4	1				○								
	卒業研究	4	3					○	12						
	小計 (120科目)	—	86	83	0	0	0	0	12	7	3	13	0		
放射線技術科学専攻	<u>専門基礎科目</u>														
	人体の構造と機能Ⅰ	1	2				○		1	1					
	人体の構造と機能Ⅱ	1	2				○		1						
	遺伝と分子生物学	1		2			○		1						
	人体発生学	2		2			○		1						
	医療と画像技術	1		2			○		1						
	環境と健康	2	2				○		1						
	生活習慣と健康	2		2			○		1						
	疾病の原因と成り立ち	2	2				○		1						
	疾病の予防と治療	2	2				○		1						
	栄養と健康	2		2			○		1						
	性の科学	3		2			○		1						
	人間工学論	1		2			○		1						
	医学と医療の歴史	1		2			○		1						
	ケアの基本理念と実際	1		2			○			1					
	医療の倫理	2	2				○								
	医療と法	2		2			○			1					
	医療と福祉	2		1			○			1					
	チーム医療	2		2			○								
	医療ボランティア論	2		1			○			1					
	医療統計学	2		2			○			1					
	介護実習	2		1					○	1					
	救急救護法	3-4		1			○				1				
	国際保健医療学	4		1			○			1					
	国際医療情報科学	4		1			○			1					
	環日本海医療概論	3	2				○								
	<u>専門教育科目</u>														
	応用数学及び演習	2	2						○	1					
	電気工学及び演習	2	1						○		1				
	電気工学実験	2	1					○		1	1				
	電子工学	2	1					○		1					
	電子工学演習	2		1					○	1	1				
	電子・システム工学実験	3		1						1					
	システム制御工学	3		1				○		1					
	医用機械工学概論	3		1				○		1				1	
	電子情報学実習	2	1							1					
	放射線物理学Ⅰ	2	2					○			1				
	放射線物理学Ⅰ演習	2	1						○		1				
	放射線物理学Ⅱ及び演習	2		1					○		1				
	放射線計測学Ⅰ及び演習	2	1						○		1				
	放射線計測学Ⅱ	3	2					○		1					
	放射線計測学実験	3	1							1					
放射化学及び演習	2	1						○		1					
放射化学実験	2	1								1					
放射線生物学及び演習	2	1						○		1			1		
放射線衛生学	2	1					○			1					
放射線関係法規及び演習	2	1						○		1			1		
放射線管理学及び演習	3	1						○							
放射線管理学実験	3	1							1						
放射性廃棄物処理法	4		2				○		1						
放射線機器工学Ⅰ	2	2					○		1						
放射線機器工学Ⅱ	3	2					○		1						
放射線機器工学実験Ⅰ	3	1							1						
放射線機器工学実験Ⅱ	3	1							1			1			
医用機器工学及び演習	3	1						○							
基礎放射線医学	1	1					○			1					

教 育 課 程 等 の 概 要

(新潟大学医学部保健学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
放射線技術科学専攻	画像解剖学演習	2	1					○		1	1				
	画像解剖学実習	4	1					○		1	1				
	画像医学Ⅰ	3	1				○			1	1				
	画像医学Ⅱ	3	1				○			1					
	画像医学演習	3		1				○		1					
	放射線写真学	2	1				○			1					
	放射線写真学実験	2		1					○	1					
	放射線撮影技術学Ⅰ	2	1				○			1			1		
	放射線撮影技術学Ⅱ	3	2				○			1					
	放射線撮影技術学演習	3	1					○		1					
	磁気共鳴画像技術学演習	3	1					○			1				
	超音波技術学	4		1			○				1				
	放射線撮影技術学実習	4	4						○		1	1			
	医用画像工学	2	2				○			1	1				
	医用画像処理工学	3	1				○			1	1				
	医用画像工学実験	3	1						○	1	1				
	医療情報学	3	1				○			1					
	医用画像処理工学演習	3		1				○		1			1		
	医用情報システム概論	3		1			○			1	1				
	核医学検査技術学Ⅰ	3	2				○			1					
	核医学検査技術学Ⅱ	3	2				○			1			1		
	核医学検査技術学Ⅲ	3	2				○			1					
	核医学特論	4		1			○			1			1		
	核医学検査技術学実習	4	3						○						
	放射線治療技術学Ⅰ	2	2				○			1					
	放射線治療技術学Ⅱ	3	2				○			1					
	放射線治療技術学Ⅲ	3	2				○			1			1		
	放射線治療学演習	3		1				○		1					
	放射線治療計画法演習	4		1				○		1					
	放射線治療技術学実習	4	2						○	1					
	卒業研究	4	4					○		8					
	放射線科学セミナー	4	2					○		1			1		
	医用放射線技術の歴史	1		1			○			1					
小計 (87科目)		—	84	46	0	0	0	0	8	4	0	6	0		
検査技術科学専攻	専門基礎科目														
	人体の構造と機能Ⅰ	1	2				○								
	人体の構造と機能Ⅱ	1		2			○			1	1				
	遺伝と分子生物学	1		2			○			1					
	人体発生学	2		2			○			1					
	医療と画像技術	1		2			○			1					
	環境と健康	2	2				○			1					
	生活習慣と健康	2	2				○			1					
	疾病の原因と成り立ち	2	2				○			1					
	疾病の予防と治療	2		2			○			1					
	栄養と健康	2		2			○			1					
	性の科学	3		2			○			1					
	人間工学論	1		2			○			1					
	医学と医療の歴史	1		2			○			1					
	ケアの基本理念と実際	1		2			○			1					
	医療の倫理	2	2				○				1				
	医療と法	2		2			○					1			
	医療と福祉	2		1			○					1			
	チーム医療	2		2			○					1			
	医療ボランティア論	2		1			○								
	医療統計学	2		2			○			1					
	介護実習	3		1				○		1					
	救急救護法	3		1			○			1					
	国際保健医療学	4		1			○				1				
国際医療情報科学	4		1			○			1						
環日本海医療概論	3		2			○			1						

教 育 課 程 等 の 概 要

(新潟大学医学部保健学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
検査技術科学専攻	専門教育科目														
	人体機能構造学	2	1			○			1						
	人体構造学実習	2		1				○	1						
	生体機能学実習	2		1				○	1						
	実験用動物学	2		1		○									
	医用写真技術実習	4		1				○							
	電子顕微鏡技術実習	4		1				○							
	生物化学	2	2			○			1						
	生物化学実習	2	1					○	1						
	分子生物学	2		2		○			1						
	遺伝子工学概論	3	1			○			1						
	遺伝子工学実習	3	1					○		1					
	発生工学概論	4		1		○			1						
	発生工学実習	4		1				○		1					
	細胞培養学	4		1		○			1						
	細胞解析学	4		1		○			1						
	腫瘍細胞学	4		1		○			1						
	循環器機能検査科学	3	1			○					1				
	筋電図検査科学	3	1			○					1				
	脳波検査科学	3	1			○					1				
	呼吸機能検査科学	3	1			○					1				
	平衡機能検査科学	3	1			○					1				
	生理機能検査科学実習	3	1					○			1				
	画像検査科学	3	1			○					1				
	画像検査科学実習	3	1					○			1				
	医学検査機器概論	2	1			○			1						
	医用工学概論	2	1			○			1						
	医用工学実習	3		1				○	1						
	情報処理科学実習	3		1				○	1						
	病気の成り立ちⅠ	2	2			○			1						
	病気の成り立ちⅡ	2		1		○			1						
	疾患と臨床検査Ⅰ	4	2			○			1						
	疾患と臨床検査Ⅱ	4		1		○			1						
	血液学Ⅰ	2	2			○									
	血液学Ⅱ	3		1		○			1						
	血液検査科学実習Ⅰ	2	1					○	1						
	血液検査科学実習Ⅱ	3	1					○	1						
	染色体検査技術科学実習	4		1				○			1				
	医学検査管理総論	4	2			○					1				
	形態系検査管理論	4		1		○					1				
	分析系検査管理論	4	1			○					1				
	環境測定実習	3	1					○			1				
	一般検査科学	2	1			○			1						
	一般検査科学実習	2	1					○	1						
	病態化学分析学Ⅰ	2	2			○			1						
	病態化学分析学Ⅱ	4	1			○					1				
	病態化学分析学実習Ⅰ	3	2					○			1				
病態化学分析学実習Ⅱ	3	2					○			1					
RⅠ検査科学	2	1			○			1							
RⅠ検査科学実習	3		1				○	1							
病理形態学Ⅰ	2	2			○			1							
病理形態学Ⅱ	3		2		○			1							
病理形態学実習Ⅰ	3	1					○	1							
病理形態学実習Ⅱ	3	1					○	1							
細胞検査学実習	3	1					○	1							
病原微生物学	2	1			○			1		1					
病原微生物学実習	2	1					○			1					
微生物検査科学	2	1			○					1					
微生物検査科学実習	3	1					○			1					
病原ウイルス学	3		2		○					1					

教 育 課 程 等 の 概 要

(新潟大学医学部保健学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
検査技術科学専攻	病原ウイルス学実習	3		1				○							
	真菌学	3		1		○				1					
	寄生虫検査科学	2	1			○									
	寄生虫検査科学実習	2	1			○									
	基礎免疫学	2	1			○			1						
	基礎免疫学実習	3	1			○			1						
	免疫検査科学	3	1			○			1						
	免疫検査科学実習	3	1			○			1						
	臓器移植検査科学	3	1			○			1						
	医療制度概論	4	1			○			1						
	臨床検査実習	4	8												
	卒業研究	4		4			○		8						
小計 (96科目)		-	75	62	0	0	0	0	8	5	0	6	0		
合計 (303科目)		-	245	191	0	-		28	16	3	25	0			
学位又は称号		学士			学位又は学科の分野			看護学又は保健学							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
(履修方法) ①教養教育に関する授業科目 (1)英語4単位 初修外国語2単位以上を含む, 8単位以上 (2)健康スポーツ 1単位 (3)大学学習法 2単位 (4)自然系共通専門基礎6単位を含み, 情報リテラシー, 新潟大学個性化科目, 自然科学, 人文社会・教育科学から20単位以上。ただし, 保健学科における専門教育に関する授業科目を除く。 ②専門科目93単位 (1)看護学専攻 1)専門基礎科目 必修科目13単位 選択科目4単位 2)専門教育科目 必修科目73単位 選択科目3単位 (2)放射線技術科学専攻 1)専門基礎科目 必修科目14単位 選択科目6単位 2)専門教育科目 必修科目70単位 選択科目3単位 (3)検査技術科学専攻 1)専門基礎科目 必修科目12単位 選択科目6単位 2)専門教育科目 必修科目62単位 選択科目13単位								1学年の学期区分		2期					
								1学期の授業期間		15週					
								1時限の授業時間		120分					

授 業 科 目 の 概 要				
(保健学研究科保健学専攻)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
看護学分野・放射線技術科学分野・検査技術科学分野	専攻共通科目	生命と生活の健康科学	<p>(概要)</p> <p>「生命と生活の健康科学」を「病気になりにくい体作りと社会作りの科学」として捉え、以下に示す予防医学を中心とする内容の授業科目を配置する。また生命倫理では生命科学と医療の急激な発展がもたらした倫理問題について、生命と健康の視点から論じる。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(3 佐山光子/2回)</p> <p>「ライフステージと健康支援」</p> <p>ライフステージの各期にある個人並びに集団を対象として健康増進を図る一次予防、また疾病の治療過程で生じやすい再発・悪化防止やADL障害の改善など目指した三次予防の2つの観点から、人々のQOL向上をねらいとした健康支援のあり方について看護学の立場から論究する。</p> <p>(6 村松芳幸/2回)</p> <p>「生活習慣病とその予防」</p> <p>生活習慣病は、食習慣、喫煙等の生活習慣が関与する疾患群で、健康増進・発病予防といった一次予防に重点を置いた対策を推進するために導入された概念である。計量心理学的手法を用い、その対策の有効性に関して論究する。</p> <p>(23 宮坂道夫/2回)</p> <p>「生命倫理」</p> <p>医療と生命科学の諸領域における生命倫理上の問題について、内外の事例、学説、法制度、社会的背景等について教授する。研究・臨床における倫理的課題を発見し、事例の検討をとおして理論的な推論を行う。</p> <p>(7 関 奈緒/2回)</p> <p>「疫学調査」</p> <p>地域集団の健康事象に関する各種の保健医療情報の収集と評価の方法について、公衆衛生的アプローチについて疫学的視点から論究し、併せて国内外での実証的な保健医療活動での調査方法ならびデータ解釈/解釈方法について、論究する。</p> <p>(14 佐井篤儀/2回)</p> <p>「医療情報システム」</p> <p>医療の効率化のためには、地域医療や遠隔医療に必要なインターネットやLANを介した医療情報通信などの新しい技術の推進が必要である。その新しいIT技術を活用した生体や画像情報を含んだ総合医療情報システムの構築法について教授する。</p> <p>(28 寺尾通徳/2回)</p> <p>「国際感染症の予防対策」</p> <p>近年の高度高速交通網の発達と国際交流の増大に伴い、新たな新興・再興感染症への対応が求められており、世界的規模の予防対策と発生時における健康危機管理体制の整備がなされている。これらの感染症の歴史的背景と発生要因、感染の成立に関わる病原体側の主性状と発症機序並びに感染源、感染経路、診断法等について解説し、最新の検索同定法とその予防対策について教授する。</p>	オムニバス方式

	<p>(1 高橋益廣/3回) 「遺伝子解析と疾病予防」 疾病は、遺伝と環境、そして生活習慣などがそれぞれに関連して発現に至る。特定の疾病に係る遺伝子を解析して疾病リストを探る、すなわち、「遺伝子ドック」を行うことにより、患者の疾病リスクを把握し、生活習慣の改善を指導することによって疾病を未然に防ぐことがある程度可能と考えられる。一部の悪性腫瘍、高血圧、心筋梗塞、アルツハイマー症などにおける遺伝子ドックの意義について教授する。一方、「現段階で多因子疾患に対する遺伝子検査は倫理的に行うべきではない」との見解もあり、倫理的な面からも遺伝子診断の問題点を提起する。</p>	
看護学研究法	<p>(概要) 看護学における研究の精度の向上と看護アセスメントのための尺度開発、看護実践理論の創出に向けて、量的研究法及び質的研究法の2大研究法の特徴と両者の研究プロセスを論究する。また、2大研究法それぞれにおける倫理課題について論述し、その倫理遵守の具体を教授する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (高木廣文・兼任/8回) 看護現象を数量的かつ多次的に把握する手法として量的研究法における多変量解析を中心に、重回帰分析、因子分析、尺度構成法などについて解説し、さらに確証的研究における方法論を論究する。また、量的研究における個人情報保護と倫理課題について教授し、研究者としての基本姿勢を解説する。</p> <p>(戈木クレイグヒル滋子・兼任/7回) 看護現象の解釈と理論創出をめざした研究手法として、各種の質的研究法の特徴と成果を解説し、質的帰納的研究による記述理論の開発から説明理論の検証、予測理論へと至る過程を通じてその実際を論究する。また看護研究者の立場から質的研究に関する倫理的課題について解説し、その方略の基本概念を教授する。</p>	オムニバス方式
ケア技術開発法	<p>(概要) 科学的根拠に基づいた全人的なケアの開発とその検証をめぐって、看護実践の倫理及び研究倫理を基盤におき、統合医療及び相補代替療法の基礎理論を教授し、看護支援の技術開発のための研究手法・解析法、さらに全人的看護に対する検証法について、最新の研究成果をもとに論考する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (小板橋喜久代・兼任/7回) 相補代替療法の基礎理論を教授し、看護支援への適用についてとくにリラクゼーション法及びタッチ・マッサージ法を中心に、これまでの研究成果を提示し、その臨床適用と効果を検証するための実験的アプローチを教授する。また、ケアの開発と検証、臨床適用へのプロセスを通してケア介入研究における倫理的問題を解説し、その対応と基本姿勢を教授する。</p> <p>(32 定方美恵子/8回) 統合医療における医療観、養生観、健康観について教授し、特に女性の冷え症を取り上げ、これまでの研究成果を提示し、症状の客観的な測定法と看護ケアのための技術開発、検証のための実験的アプローチを教授する。また、統合医療の視座による研究アプローチや臨床適用のための倫理的・文化的多様性を考慮した基本姿勢について解説する。</p>	オムニバス方式

看護学分野・放射線技術科学分野・検査技術科学分野	専攻共通科目	保健学情報解析法	(7 関 奈緒/15回) Evidence-Basedの質の高い保健学研究を立案・実施するために必要かつ適切な保健情報の探索によって得られた情報を批判的に検討し精度を評価する能力を身につける。保健学研究において求められるデータ解析のための高度な統計学手法、保健医療における個人情報の適切な取り扱い、倫理的配慮等を学び、さらに文献を素材とした演習および研究計画の実践を通じてその応用力を修得する。	
		研究倫理	(23 宮坂道夫/15回) 本科目では、I総論として(1)生命倫理—医療・生命科学領域で生じている倫理的問題、(2)技術倫理—科学技術や工学領域で生じている倫理的問題、(3)環境倫理—人間の活動が環境にもたらす影響によって生じている倫理的問題、の3領域について、これまでの発達の経緯と理論的基盤についての講義を行う。 その上で、II各論として、医学・医療に関連する研究活動についての倫理的問題について、(1)倫理原則と法規、(2)個別事例の検討の方法の二つについて、ケーススタディを行いながら検討する。	
看護学分野	分野専門科目	小児・女性看護学特講	(概要) 小児及びライフサイクル各期にある女性と家族の健康支援において、特に多胎児や慢性疾患児とその親、家族の健康問題、不妊や女性特有の心身不調などの健康課題に特化し、心理社会的および身体的な健康・生活支援のための諸理論並びに先端的な看護介入法について論究する。 (オムニバス方式/全15回) (2 渡邊タミ子/4回) 小児とその家族の健康や生活支援、自己概念、家族ストレスや生活の質(QOL)等との関わりについて、発達理論や家族理論などの理論的背景を基盤にし、多胎児・障害児や慢性疾患児等とその家族を中心に、成育医療の観点から看護支援のための方法論や研究法について論究する。 (3 佐山光子/4回) 成育医療と女性の生涯を通じた性と生殖に関する健康支援の観点から不妊治療、女性のHIV、セクシュアリティ等の健康課題について、心身の調和を目指した看護介入及びジェンダー視点をもった支援モデルの開発について論究する。 (32 定方美恵子/3回) 女性に特徴的な心身の不調や苦痛、冷え症などについて、統合医療の観点から、看護介入のためのケア技術の開発及び研究法について論究する。 (22 渡邊岸子/4回) カウンセリング理論、心理療法理論、家族危機理論等を基盤として、不登校児とその家族、また女性や家族の心理社会的な健康支援について論述し、その介入法や研究法について看護学の視点から論究する。	オムニバス方式

看護学分野	分野専門科目	小児・女性看護学特講 演習	<p>(概要) 小児、女性、及び家族の健康支援について、個人や家族の発達過程とともに地理的特性や文化風土も視座におき、特有の支援ニーズをもつ個人や家族の看護介入に関する国内外の文献の講読と批判的思考を通して、学際的な研究法の理解を深め、それを応用できるように演習を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (2 渡邊タミ子/4回) 小児期における健全な自己概念の形成や親子関係の発達の観点から、多胎児や慢性疾患児とその家族の健康と生活支援に関する課題に焦点化し、それに関わる国内外の文献を講読・解説し、今後の研究課題と研究手法に関する演習を行う。</p> <p>(3 佐山光子/4回) 性と生殖に関する女性特有の健康課題へのアプローチ及びケアについて、女性学やジェンダー論等の人文科学をも視野に入れ、国内外の文献を講読・解説し、今後の研究課題と動向について演習を行う。</p> <p>(32 定方美恵子/3回) ライフサイクル各期における女性の包括的な健康支援について、女性特有の心身不調に注目し、包括的なアプローチとケアの観点から、統合医療や補完代替療法などに関する国内外の文献を講読・解説し、今後の研究課題とその研究手法に関する演習を行う。</p> <p>(22 渡邊岸子/4回) 看護カウンセリングの視点から家族関係とその発達過程に注目し、心理社会的な問題を抱える親子・家族の健康支援に関する国内外の文献を講読・解説し、批判的思考を通して学際的な研究法に関する演習を行う。</p>	オムニバス方式
		地域・国際看護学特講	<p>(概要) 人々の健康と地域社会の風土、文化の相互作用に注目し、さらには人々の健康問題について、国境を越えた世界レベルで捉え、特定の国の文化や国情の違いを踏まえながら、その地域で生活する人々の疾病予防のための生活習慣ならび健康行動の測定指標の開発ならび看護介入法、研究法について論究する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (4 西山悦子/8回) 生活習慣病、特に循環器系疾患と、食生活の偏りや喫煙などといった生活習慣との関係について、地域社会の風土と伝統・文化、個人の価値観などを視座に置いた、健康・生活支援のための諸理論及び研究法について論究する。また介護技術の改善・開発に向けて、エビデンスに基づいた評価方法の開発を論究する。</p> <p>(5 丹野かほる/7回) 保健医療分野における国際協力のなかで、特に発展途上国の女性のリプロダクティブヘルスと母子保健、さらにジェンダーに関わる健康問題に注目し、看護専門職が果たすべき役割と問題解決のための戦略諸理論、看護介入方策の開発・構築について論究する。</p>	オムニバス方式

看護学分野	分 野 専 門 科 目	<p>地域・国際看護学特講 演習</p>	<p>(概要) 地域社会の風土と伝統・文化、さらには歴史・政治経済といった社会環境を視座におき、特有の支援ニーズを持つ人々の健康課題に焦点をあて、援助理論やケア開発技術について国内外の論文の精読と批判的思考を通して、地球規模での健康支援の研究手法の理解を深め、それを応用出来るように演習を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (4 西山悦子/8回) 地域特性と生活習慣病との関連性、疾病予防のための生活指導とその効果、地域または集団を対象とした健康管理のための介入方略、さらに介護職者への介護技術の教育支援などについて、国内外の文献を批判的思考を通して講読・解説し、エビデンスを高めるための学際的な研究手法についての演習を行う。</p> <p>(5 丹野かほる/7回) 歴史・政治経済及び伝統・文化的背景を視座におき、国際的な視座から女性の性器切除の健康被害や家族計画、プライマリ・ヘルスケア等の健康課題に対し、文献の講読や実際の事例を通じて多面的な把握のための方略開発と問題解決のための技術及び援助理論構築についての演習を行う。</p>	オムニバス方式
		<p>保健学特定研究 (看護学)</p>	<p>(概要) 看護学の視点から健康や生活支援に関わる研究課題を設定し、倫理的配慮にもとづいて研究計画の立案、各種調査法や実験法等によるデータ収集、質的又は統計学的手法を用いて分析し、それらを通して研究論文の作成に至るまでのプロセスを自立してできるように指導する。</p> <p>(2 渡邊タミ子/60回) 小児とその家族に対する健康や生活支援に関わる健全な自己概念の形成や生活の質(QOL)向上のための看護ケアの開発、並びに特殊な養育ニーズをもつ児とその家族に対する援助モデルの構築などについて研究指導を行う。</p> <p>(3 佐山光子/60回) 女性の生涯を通じた健康と性と生殖に関する女性特有の健康問題について、質的研究を手法とし、地域や生活に密着した健康支援モデルの開発や理論創出、ジェンダー視点をもったケアプログラムの開発などについて研究指導を行う。</p> <p>(32 定方美恵子/60回) 女性に特徴的な心身の不調や苦痛、冷え症などについて、統合医療の観点から、実験法や介入研究を手法とし、全人的アプローチによるケア技術開発のための研究指導を行う。</p> <p>(22 渡邊岸子/60回) 心理社会的な健康問題を抱える母子や親子、不登校児と親、そこに関わる家族の関係に着目し、看護学の視座によるカウンセリングや心理療法、コンサルテーション等のケア開発や理論創出などに対して研究指導を行う。</p> <p>(4 西山悦子/60回) 地域や特定の集団に所属する人々の生活習慣病の発症に焦点をあてて、その予防に必要な生活習慣を把握するための測定尺度の開発や健康支援方策に対する評価尺度の開発に関わる研究課題について研究指導を行う。</p> <p>(5 丹野かほる/60回) 発展途上国における女性の性と健康問題、及びその解決的アプローチに向けて、フィールド調査の実際、問題解決方法の構築、論文作成のプロセスにおいて、国際看護学の視点から研究指導を行う。</p>	

放射線技術科学分野	分野専門科目	医用物理学特講	<p>(概要) 放射線医学分野における物理学の画像診断及び放射線治療への応用について、先端的研究を中心に教授する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (8 和田眞一/4回) 画像診断装置及び画像ガイド放射線治療装置を対象に、画像系物理特性、画像定量性及び放射線治療精度の関係を追求し、物理特性の測定と解析方法に関する医学物理の最新手法について探求する。</p> <p>(9 川瀬俊為/4回) 量子電子工学について探求すると共に、医用画像装置開発への応用について考究する。</p> <p>(24 日向 浩/4回) 放射線と物質の相互作用で生ずる効果量を表す放射線量の定義と測定方法について探求し、放射線治療への臨床応用について考究する。</p> <p>(25 齋藤正敏/3回) 放射光と物質の相互作用で生じる現象の測定及び解析手法を講義する。また、これらの手法の画像医学への応用について講義する。</p>	オムニバス方式
		医用物理学特講演習	<p>(概要) 医学物理領域の研究に関する文献や資料を輪読すると共に、講義内容の理解深化を目的としたコンピュータシミュレーション等の演習指導を行う。</p> <p>(オムニバス方式/15回) (8 和田眞一/4回) 画像診断装置及び画像ガイド放射線治療装置に関する医学物理の最新の文献や資料を輪読し、その研究方法について演習指導を行う。</p> <p>(9 川瀬俊為/4回) 電磁波（レーザー光や放射光など強度が大きく干渉性のよい電磁波）と物質との相互作用を利用した現象・機器に関する医学物理の文献を輪読し、その研究手法について演習指導を行う。</p> <p>(24 日向 浩/4回) 放射線量と生体に及ぼす定量的因果関係にある物理量について、最新の文献や資料を輪読し、研究・応用方法について演習指導する。</p> <p>(25 齋藤正敏/3回) 医学物理領域における放射光を利用した計測や解析並びにシミュレーションについて演習指導する。</p>	オムニバス方式

放射線技術科学分野	分野専門科目	<p>生体機能情報解析学特講</p> <p>(概要) 生体の機能について生体医工学あるいは生理・生化学的観点から、放射線技術等を用いて解析を行う手法とその臨床応用について探求する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (10 坂本 信／5回) 放射線, MRI, 超音波, 近赤外線, 力学的エネルギー等を用いて生体組織及び器官の構造と機能を解明するバイオメカニクスに基づいた解析・評価法を開発し, 生体組織の最適化メカニズムについて追求する。また, これらに関連した新たな医用工学技術の臨床への応用について考究する。</p> <p>(11 高橋俊博／5回) 放射性薬剤をインビボトレーサーとして用いた時に得られる放射能の分布や動態等の情報より, 目的とする臓器の機能を生理・生化学的に解析する手法を教授する。また, これらに関連した新たな標識薬剤の臨床への応用について教授する。</p> <p>(26 大久保真樹／5回) 磁気共鳴画像装置やX線CT装置等を用いて生体の構造や機能を解析する先端的技法や新しい応用分野について探求するとともに, 最先端のコンセプトを構築する。</p>	オムニバス方式
		<p>生体機能情報解析学特講演習</p> <p>(概要) MRI, 超音波, 放射線技術と放射性薬剤等を利用した生体の機能を解明するため新たな理論や技術について, 演習を通じて追究する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (10 坂本 信／5回) 生体組織及び器官の機能構造解析を行うためのCR, MRI, 超音波等によるバイオメカニクスに基づいたin vitroの基礎的研究技術及びin vivoにおける臨床応用技術について実験を含めた演習を行い, 新しい解析技術の開発を探求する。</p> <p>(11 高橋俊博／5回) 腫瘍, 心臓, 脳を主対象臓器(組織)とし, 放射性薬剤を用いた臓器機能の解析法に関して, in vitroでの基礎的技術および臨床応用技術について実験を含めた演習を行う。</p> <p>(26 大久保真樹／5回) 放射線技術を用いた先端的な生体情報計測, 処理及び解析に関する理論や技術について, シミュレーション実験等を交えた演習を通して探求する。</p>	オムニバス方式

放射線技術科学分野	分野専門科目	臨床画像診断学特講	<p>(概要) 各種疾患におけるX線CT, MRI, 核医学など画像診断法の臨床的応用について探求する。また, 各検査法から得られる機能情報に関連する定量的評価法について考究する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (12 木村元政/8回) X線CT, MRIより得られる血管解剖を中心とした高精細な3次元画像解剖情報について探求する。また, 循環器領域においてX線CT, MRIを用いた心機能指標算出法, 血管径計測法について評価し, これら算出法の精度及び臨床的意義について追究する。</p> <p>(13 栢森 亮/7回) PET及びSPECTより得られる機能情報の定量性や臨床応用について探求する。また, 機能情報に優れた核医学画像と形態情報に優れたX線撮影, X線CT, MRIなど他画像との融合方法について考察し, これらfusion imagingの精度及び臨床的意義について追究する。</p>	オムニバス方式
		臨床画像診断学特講演習	<p>(概要) X線CT, MRI, 核医学などのファントムデータ及び臨床データを用いて, 各種画像診断法の定量的解析について演習を通して探求する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (12 木村元政/8回) MDCT, MRIのファントムデータ及び臨床画像データを用いて, 血管の3次元再構成画像を作成し, 適切な表示法並びに血管計測法について考察する。また, 心容積・駆出率など心機能指標算出について探求する。</p> <p>(13 栢森 亮/7回) PET・SPECT画像及び血管造影・X線CT・MRIの臨床画像データを用いて, 適切なfusion imagingの作成方法について考察する。また, ファントムを用いてfusion imagingの精度向上について探求する。</p>	オムニバス方式
		医用画像情報学特講	<p>(概要) 放射線, 電磁波, 超音波などの媒体を用いて得た画像情報を異なる角度からの最新の画像処理・加工技術, 解析手法について探求する。また, コンピュータ診断支援システムの開発のポイント及びそのシステムの精度の評価法等について考究する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (14 佐井篤儀/8回) 画像情報処理, 人工知能などの最先端の医療画像情報に関する原理・技術について追究する。また, コンピュータ診断支援システムの構築法を検討し, 多臓器・多疾病を対象としたシステムの実現を図る。</p> <p>(27 関谷 勝/7回) 放射線画像等の医用画像情報の定量的な評価法, 画像情報の獲得・管理に関する概念について追究する。また, 診断支援システムの精度を支配する種々の要因についても考究する。</p>	オムニバス方式

放射線技術科学分野	分野専門科目	<p>医用画像情報学特講演習</p>	<p>(概要) 画像情報を解析し、その特徴を抽出するための画像処理法や画像情報の定量的最新評価法の演習を行う。更に、コンピュータ診断支援システム構築の実例について、その構築から評価までの演習を通してシステム開発に向けた概念を探求する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (14 佐井篤儀／8回) コンピュータ診断支援システムを開発するための一環としての最新の画像処理法、特にウェーブレット解析法に関する演習を行う。また、人工知能(遺伝的アルゴリズム、神経回路網、ファジイ理論)に基づく医療画像診断支援システムの構築技法を開発する演習を行う。</p> <p>(27 関谷 勝／7回) 放射線画像等の医用画像情報の定量的な評価法、画像情報の獲得・管理に関する演習を行う。また、医用画像情報学を用いて検査技術の新しい標準化の方法について追究する。</p>	オムニバス方式
		<p>保健学特定研究(放射線技術科学)</p>	<p>(概要) 放射線技術科学に関する先端的基礎研究及び臨床応用研究課題を設定し、研究計画の立案、実験によるデータの収集と分析を通して研究論文作成を行う。</p> <p>(8 和田眞一／60回) 画像診断装置、放射線治療装置の物理特性の測定を通じた、新しい診断手段の開発、診断・治療の精度管理と向上に関する研究に取り組む。</p> <p>(9 川瀬俊為／60回) 非電離電磁放射線(光から電波まで)と物質(特に生体物質)との相互作用の特性について、その基礎から応用まで実験的・理論的に考究する研究を行う。</p> <p>(10 坂本 信／60回) バイオメカニクスの観点から生体のナノレベルからマクロレベルまでの構造と機能を解析、評価する基礎研究及び臨床応用研究課題を設定し、先駆的な研究を行う。</p> <p>(11 高橋俊博／60回) 核医学診断に用いられる放射性薬剤の開発及び動物実験によるその有用性を検討し、更に、ここで得られた結果の臨床診断への応用に関して追究する。本研究では特に種々の心筋イメージング剤を用い、心筋機能をエネルギー獲得系と関連させて総合的に評価する研究を行う。</p> <p>(12 木村元政／60回) MDCT及びMRIを用いた血管解剖の臨床利用及び心筋血流・心機能に関する定量的評価法について研究する。</p> <p>(14 佐井篤儀／60回) 医用画像情報処理技術の開発をはじめ、広範な医用診断支援システムの研究開発、あるいは医工学分野の学際領域の医用画像解析法の確立について研究する。</p>	

検査技術科学分野	分野専門科目	ゲノム・微生物病態検査科学特講	<p>(概要) ゲノムの構造と機能の全体像を明確にし、遺伝子発現調節、ゲノム研究の方法論、ゲノムの分子生物学的及びコンピュータによる解析法について教授する。また、感染の成立に関与している病原体側の主要な因子の検索手法及び同定法を教授するとともに、宿主側の防御機構の多様性とその検査手法並びに感染予防法について教授する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (15 高橋由明/8回) DNAチップによる検査診断法やその診断法の基盤となっている分子生物学的技術について教授するとともに、実験動物の扱い、プライバシーの保護、カウンセリング、検査結果の開示などのゲノム研究やゲノム医療で提起される倫理問題について、実例を挙げ討論形式で教授する。</p> <p>(28 寺尾通徳/7回) 細菌感染症に関与している病原体の主要な病原因子について解説し、感染源から宿主に侵入して感染が成立するまでの過程を、特に新興・再興感染症の病原因子を遺伝子レベルで検索する一連の技術を解説するとともに、感染予防法についても教授する。</p>	オムニバス方式
		ゲノム・微生物病態検査科学特講演習	<p>(概要) 極微量検体からのDNA抽出方法並びに抽出されたDNAの取り扱いに関する新しい技術を演習するとともに、レジオネラ菌、溶血レンサ球菌、淋菌、代表的な再興感染症である結核等の病原微生物による感染症の分子遺伝学的並びに免疫学的検査法について演習する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (15 高橋由明/8回) 抽出した微量DNAを材料として、DNA情報の獲得法、様々なDNAの変異解析法など高い処理能力を特色とするゲノム解析法を演習するとともに、情報技術や情報理論を基に得られた結果についてコンピュータ解析を利用したゲノム情報の体系化についての演習も行う。</p> <p>(28 寺尾通徳/7回) 病原微生物の中から、結核・レジオネラ等の数菌種について、感染症の原因菌としての特徴とそれに応じた新しい検査法について演習するとともに、感染源、感染経路を特定するために、各種のフィールドからの検体採取法及び病原細菌の存在状態の特性と環境因子との関わり、並びにその疫学利用法についての演習を行う。</p>	オムニバス方式

検査技術科学分野	分野専門科目	生体システム機能検査 科学特講	<p>(概要) 生体システムにおける情報伝達及び情報処理のメカニズムとその解析方法について教授するとともに、循環器系疾患の診断と心機能評価における超音波検査、各種心電図検査、並びに腹部臓器に対する超音波検査について、早期診断のための検査法と治療への応用を含め教授する。</p> <p>オムニバス方式／全15回) (17 仲澤幹雄／4回) 生体システムの恒常性維持機構について、神経伝達物質やホルモンによる情報の伝達及び生体の処理機構を例に解説する。疾病を生体システムの異常として捉え、その予防や早期診断に対する検査技術科学の役割と新しい検査法の開発について教授する。</p> <p>(16 藤原直士／4回) 生体を構成する臓器、組織、細胞、細胞内小器官の機能情報を電磁波及びフォトエレクトロニクスを利用して計測・解析する新しい生体情報測定技術の応用について教授し、病態解析など検査技術への応用についても解説する。とくに、生体情報伝達の解析について、細胞生理学的手法に加えて生細胞の高速画像技術を取り入れた新しい解析技術を用いた研究手法についても教授し、実験研究から臨床検査への応用を探索する。</p> <p>(30 池主雅臣／3回) 循環器系の生理機能検査の新しい検査技術について解説するとともに、老化が関係する冠血管障害等循環器疾患を視野に入れ、12誘導心電図、ホルター心電図、運動負荷心電図等の新しい展開、心臓超音波検査を用いた心臓疾患の診断や病態進展の予防対策、また心臓カテーテル検査法における新しい応用などについて教授する。</p> <p>(29 渡邊雅史／4回) ドップラー法超音波検査を用いた肝硬変をはじめとする慢性肝疾患の病態を把握するための肝血流量の測定について解説するとともに、予防医学の観点より、腹部疾患の画像診断の新しい展開に加え、門脈血流量に変動を及ぼすさまざまな因子について教授する。</p>	オムニバス方式
		生体システム機能検査 科学特講演習	<p>(概要) 個体、臓器・組織、さらに、細胞、細胞内小器官等の生体システムにおける情報伝達及び情報処理について、研究モデルの作成、情報の検出・計測及びデータ処理等の新しい研究方法について演習するとともに、病態生理機能学に関する新しい検査技術についての演習も行う。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (17 仲澤幹雄／4回) 循環器系疾患の研究を主眼にすえ、個体及び臓器レベルでの新しい実験手法を演習するとともに、循環器系疾患の病態モデル動物を使用し、病態時における生体システムの解析技術と疾病の進展を早期に診断するための検査技術についての演習も行う。</p> <p>(16 藤原直士／4回) 正常及び病態モデル動物から得られた中枢神経系組織、細胞、細胞内小器官を用いて、種々の生体機能情報の検出と計測する新しい画像技術について演習するとともに、各種の生体機能の物質基盤を解析する超微量分析技術の新しい分析手法についての演習も行う。</p>	オムニバス方式

		<p>(30 池主雅臣/3回) 加算平均心電図を用いた心臓内微小遅延電位の記録法、ホルター心電図のスペクトル解析を用いた交感神経緊張と副交感神経緊張の定量的評価法、体表面心電図のコンピュータ解析による心臓再分極異常の評価法及び心臓内心電図の解析による発作性頻拍症の電気生理学的機序についての演習を行う。</p> <p>(29 渡邊雅史/4回) 超音波Bモード及び血流測定のための新しいパルスドップラー法、肝臓を中心とした血行動態の評価法、特に糖質・蛋白質・脂質などの各種栄養素別の食事負荷による生理的な門脈血流変動の違いや定量的運動負荷と門脈血流量減少との相関等に関する演習を行う。</p>	
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">検査技術科学分野</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">分野専門科目</p>	<p>病態病理検査科学特講</p>	<p>(概要) 機能的・形態的に異常を起こした細胞が生体に種々の腫瘍性及び非腫瘍性疾患を惹起する過程について解説するとともに、生体における正常細胞と異常細胞の形態的・機能的変化とその解析方法について教授する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (19 岩淵三哉/7回) 消化器の種々の炎症性及び腫瘍性疾患の発生と自然史に関して、光顕的、電顕的、免疫組織化学的及び分子生物学的検査技術を用いて病理形態的及び機能的に解析する方法を解説し、疾病の予防に応用する新しい検査技術について教授する。特に、食道・胃・腸管の上皮性腫瘍では細胞異型度、細胞形質、細胞分化の特性と生物学悪性度との関連を、また内分泌細胞腫瘍では組織発生、増殖・転移能の特性について教授することで早期診断のための検査法の確立を探究する。</p> <p>(18 平野茂樹/8回) 細胞と周囲組織との様々な関係について、光学顕微鏡や電子顕微鏡で二次元的に解析する方法に加えて、走査電子顕微鏡、蛍光顕微鏡、更には実体顕微鏡による三次元的解析のための全体標本の意味を解説し、あらゆる場面において目的に最も相応しい標本を得るための専門的能力を教授する。</p>	<p>オムニバス方式</p>
	<p>病態病理検査科学特講 演習</p>	<p>(概要) 細胞・組織の形態的検査法である基本染色、組織化学染色、免疫組織化学染色、遺伝子発現を捉えるための免疫染色やin situハイブリダイゼーション法及び多重染色法と電顕的検索法を用いた細胞分子レベルでの新しい病態検査法について演習する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (19 岩淵三哉/7回) 消化器の炎症性及び腫瘍性疾患における細胞、組織、臓器の変化を種々の光顕的、電顕的、免疫組織化学的及び分子生物学的検査技術を用いて病理形態的及び機能的に解析する方法について演習する。特に、食道・胃・腸管の上皮性腫瘍及び内分泌細胞腫瘍の細胞異型度、細胞形質、細胞分化の特性を病理形態学的に解析し、腫瘍の生物学的悪性度との関連を解明するための方法に関する演習を行う。</p> <p>(18 平野茂樹/8回) 特定の機能、性質を持った細胞群の臓器内での分布を三次元的に把握するために必要な免疫標識法やマイクロインジェクションによる細胞標識法、あるいはin situ ハイブリダイゼーション等を応用し、高度な解析が可能な全体標本の作成について演習する。その他、電子顕微鏡標本作成法や走査電子顕微鏡標本の作成法についての演習も行う。</p>	<p>オムニバス方式</p>

検査技術科学分野	分野専門科目	免疫・血液病態検査科学特講	<p>(概要) 免疫系の恒常性破綻による疾患についての概要を解説した上で糸球体腎炎及び膠原病を例にとり、その発症メカニズム及び検査法を教授する。血液学では特に造血器腫瘍に関する診断、治療の評価、及び新しい治療法の開発と関連する各種の新しい検査手段について教授する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (20 折笠道昭/4回) 糸球体腎炎での蛋白尿発生機序と糸球体傷害機構に関してモノクローナル抗体による分子レベルでの解析法を教授するとともに、半月体形成での糸球体上皮細胞及びマクロファージの役割等についても教授する。腎炎の早期診断のための検査法を開発する。</p> <p>(21 中野正明/4回) 自己免疫現象の成立機序について、抗原認識、抗原情報伝達、抗体産生などの過程における異常とその背景に存在する要因について解説するとともに、代表的自己免疫疾患である各種膠原病を対象に、疾患特異的自己抗体と疾患非特異的自己抗体との差異、自己抗体による病型分類の可能性、自己抗体と臓器障害との関連について教授する。</p> <p>(1 高橋益廣/4回) 造血器悪性腫瘍の病型診断や予後因子に応用できる検査技術、腫瘍症例の腫瘍免疫能の評価のための検査法、抗腫瘍免疫療法の確立に必要な検査技術、遺伝子治療の開発に必要な解析技術などについて教授するとともに、フローサイトメトリーの新しい応用、腫瘍免疫における細胞傷害活性の新しい検査法、腫瘍の進展予防のための腫瘍免疫賦活法などについても教授する。</p> <p>(31 成田美和子/3回) 各種造血障害の診断や発症原因を明らかにするための検査技術について解説するとともに、骨髄移植・骨髄細胞療法(再生医療)などにおける、細胞の生着や分化に関わる因子、抗腫瘍免疫細胞の働きについても最新の知見をもとに教授する。</p>	オムニバス方式
		免疫・血液病態検査科学特講演習	<p>(概要) 腎疾患及び自己免疫疾患の病因病態解析に関する検査法を演習するとともに、造血器腫瘍の病態の解明、診断、治療の評価と新しい治療法の開発に必要な検査技術についても演習する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (20 折笠道昭/4回) 免疫組織化学と遺伝子解析による腎炎の病態検査法に関する演習を行うとともに、糸球体培養などの高度な培養技術及びモノクローナル抗体による腎炎関連分子の解析法と対応遺伝子の同定法を演習し、早期診断のための検査法を採球する。</p> <p>(21 中野正明/4回) フローサイトメトリーによる各種免疫担当細胞の量的・質的評価、クラス・及びクラス・HLA抗原、更にはHLAアレル等の遺伝要因関連検査手技について演習するとともに、プロテオーム解析などの技術を用いて、各種膠原病における未知の自己抗原を検索・同定する手技についての演習も行う。</p> <p>(1 高橋益廣/4回) 造血器腫瘍をはじめとする悪性腫瘍の病因の解明、病態の検索、治療法の開発等を行うための基本となる細胞の液体及び半固形培養法、モノクローナル抗体や種々の試薬を用いたフローサイトメトリーによる細胞解析法、混合リンパ球培養や細胞傷害試験等の血液・免疫関連の検査手技に関する演習を行う。</p> <p>(31 成田美和子/3回) 主に、ヒト造血幹細胞の分化段階ごとの培養、骨髄支持細胞を用いた造血幹細胞のin vitroでの増幅、造血器疾患の染色体分析、FISHによる診断等に関する技術を基にして、実際の臨床例における病態の解析法についての演習を行う。</p>	オムニバス方式

保健学特定研究(検査技術科学)

(概要)

分子、細胞、組織、個体の各レベルにおける生体機能とその物質基盤、及び各種疾患の病因、病態の解明に関連する検査技術に関する研究課題を設定し、研究計画の立案、実験の準備および実施、データの収集・解析、論文作成を行い、各研究テーマについて研究・指導を行う。

(15 高橋由明/60回)

正常、肝炎、肝がん3者間のゲノムDNAの変異を伴わない発現変化(DNAのメチル化変化)を手がかりとして、発現異常を示す遺伝子の探索を行う。これら遺伝子の中から肝炎・肝硬変から肝がんへの移行に関係する遺伝子及びがんの悪性度に関係する遺伝子を同定し、臨床検査で利用できる肝がんの腫瘍マーカーの開発を行う。上記の研究テーマについて研究・指導を行う。

(17 仲澤幹雄/60回)

循環器系疾患モデル動物の個体及び摘出臓器さらに分離細胞を使用し、生体システムの検査手段として、生化学、組織学及び生理学的な方法を用いた疾患の発症、進展及び薬剤の影響について研究する。上記の研究テーマについて研究・指導を行う。

上記の研究テーマについて研究・指導を行う。

(16 藤原直士/60回)

正常及び病態モデル動物を用い、膜電位画像、細胞内カルシウム画像等光学的手法により脳組織や神経細胞の活動を解析し、中枢神経系の細胞間コミュニケーションやシグナル伝達のメカニズムについての研究を行う。また、これらの過程に対する脳低酸素・虚血等組織細胞環境の影響と病態との関連を解析し、神経細胞障害過程の解明に関する研究を行う。上記の研究テーマについて研究・指導を行う。

(19 岩淵三哉/60回)

消化器の炎症性疾患と腫瘍及び内分泌細胞腫瘍の発生と進展に伴う形態的・機能的変化について光顕的、電顕的、免疫組織化学的及び分子生物学的検査技術を用いた研究を行う。また、人体諸臓器の種々の病態における細胞の形態的变化を検討し、細胞診検体検査に関する研究を行う。上記の研究テーマについて研究・指導を行う。

(18 平野茂樹/60回)

顕微解剖学的手段と各種細胞標識法を組み合わせた実験にアポトーシスの解析などを加え、in vitro の系では再現できない器官発生の場で見られる同一環境で同時に生じる多様な細胞分化の機構について研究する。またニワトリ胚子にマウスあるいはラットの臓器を移植し、生着・増殖条件を探る。更に遺伝子疾患動物(KO動物を含む)の解析から最終的に獲得する形態や機能に対して遺伝子が直接関与したのか、あるいは間接的に関与した結果なのかについて探求する。これらの実験・観察を通して再生医療を視野に入れた臓器形成に関する研究を行う。上記の研究テーマについて研究・指導を行う。

検査技術科学分野	分野専門科目		<p>(20 折笠道昭／60回) 糸球体腎炎の発症機構解析と診断及び検査法の開発を主題とした研究を行う。すなわち、モノクローナル抗体による腎炎惹起因子あるいは進展で関与する分子の同定を行い、検査試薬としての可能性を探究することで、糸球体腎炎の早期診断法確立のための研究を行う。上記の研究テーマについて研究・指導を行う。</p> <p>(21 中野正明／60回) プロテオーム解析などの技術を用いて、各種膠原病における新たな自己抗原を検索・同定し、それらの自己抗体を酵素免疫測定法などで定量し、自己抗体の臨床的意義を解明する研究を行う。また、免疫プロット法などの特殊な方法でのみ検出可能で、定量的評価ができていない自己抗体についても酵素免疫測定法による新しい測定系を開発し、自己抗体の臨床的意義を明らかにする研究を行う。上記の研究テーマについて研究・指導を行う。</p> <p>(1 高橋益廣／60回) 血液・免疫に関連した研究テーマを設定し、目標に沿った実験を行い、その結果を解釈し、文献的考察を加え、論文を作成する。研究は・造血器悪性腫瘍症例における抗腫瘍免疫能の評価のための新しい検査技術、・腫瘍免疫療法の確立に必要な検査技術、・新しい遺伝子導入療法の開発に必要な検査技術、の開発をテーマとした研究を行う。上記の研究テーマについて研究・指導を行う。</p>	

新潟大学大学院保健学研究科保健学専攻（博士後期課程）の 設置の趣旨及び特に設置を必要とする理由を記載した書類

I 設置の趣旨及び必要性

1 理念

保健学は、人々の健康、疾病並びに障害を研究し、健康と福祉の向上に寄与することを追求する学問であり、医学や医療学だけでなく、社会学、心理学及び社会福祉学などを包括する総合的かつ学際的な科学とされている。本保健学研究科博士後期課程の理念は、看護学、放射線技術科学及び検査技術科学の各分野がそれぞれの立場から、個人並びに集団における健康支援と疾病の予防を積極的に推進し、健康寿命の延伸と生命・生活の質の向上をはかることを通して、学際的科学である保健学の発展に貢献することである。かかる理念に沿って、3分野は独自の手法と創造性をもって、健康支援に結びつく保健学の体系化と健康に関連する生命現象の探求を遂行する。

2 目的及び人材養成

創造的な研究能力を有する以下の人材を養成することを目標とする。

① 研究者の育成

保健学という共通基盤の上に立脚し、看護学、放射線技術科学並びに検査技術科学それぞれの分野における学問体系の確立と技術の開発を積極的に推進し、特化した専門領域において第一人者となるような研究者を育成する。

② 教育者の育成

保健学に関する広い学識と専門領域における高い見識並びに優れた研究能力を有し、医療専門職者の養成に貢献できる教育者を育成する。

③ 高度医療専門職者の育成

修士課程で培われた高度の専門的能力をさらに高め、保健医療の実践の場において指導的・専門的立場から実務を遂行し、自立的な研究が併行して行える人材を育成する。

以上に示した人材の育成を通して広く健康支援と疾病予防に寄与し、地域医療の質の向上に貢献すると共に、海外との学術的交流を推進し、その成果を世界に発信することを目指す。

3 保健学研究科（博士後期課程）設置の必要性

(1) 社会的ニーズ

高齢社会において、高齢者が若干の不自由を感じながらも「健康」に生きる具体的方法を、健康管理と地域医療の立場から探究し健康寿命の延伸を図ることは保健学に課せられた重要課題の一つである。一方、医療費の大半が病気になってから、しかも病状が悪化してからの対応に費やされている。病気にならないための生活習慣の指導や日常生活での健康支援など、地域の特性に応じた保健活動は長期的な医療費抑制をもたらすものであり、医療専門職者が果たすべき責務である。

また、小児と女性の健康支援においては、胎児期から小児期、思春期、さらに次世代を産み育てる成人期までを継続的、かつ包括的に捉えた成育医療のアプローチが必要と

されている。それには地域特性や家族の個別性に配慮した心身の健康支援が不可欠である。一方、発展途上国における母子の保健問題では、ジェンダーの視点や子どもの権利などをふまえた国際レベルでの健康支援体制が希求されている。

また、近年になって新興・再興感染症と呼ばれる一群の感染症を引き起こす微生物が大きな脅威となり、現在または将来的に急速な蔓延の恐れが懸念されている。その例として、HIV、新型コロナウイルスやトリインフルエンザなどのウイルスや、薬剤耐性を示す結核菌や VRSA などの細菌による感染が挙げられる。本邦においても、国民の健康を守るため、これらの感染症を制御する対策の確立が急務であり、発生機構や病態形成の機序を解明し、的確かつ迅速な診断・予防法を確立することが必要である。

このような社会的ニーズに対して、本研究科は以下の課題に焦点を当てた教育研究を遂行し、「病気になりにくい体作りと社会作り」を目指し、人々の健康支援と疾患予防を推進できる人材育成を行う。

- ① 疾病構造に大きく影響している生活習慣病の予防
- ② 小児，女性，高齢者及び家族を対象とした健康支援と健康管理
- ③ 将来的に急速な蔓延の恐れが指摘されている新興・再興感染症の予防

(2) 地域的ニーズ

① 看護学領域の視点から

北日本海側に位置する新潟地域においては、全国平均に比し生活習慣病による死亡率が高い一方、病苦を理由とする高齢者の自殺者が多いことも特徴とされている。その背景には、豪雪・山間地域、離島などが抱える医療過疎の問題だけでなく、地域特有の慣習や家族関係、生活習慣、健康観などの問題が複雑、かつ多重化して内在している。また、女性の健康問題の特徴として、新潟県は低い出生率とともに人工妊娠中絶率が高く、他方では高度生殖医療による不妊治療を受ける人も増加しており、そのために多胎妊娠が多い。このような女性や母子の健康に対してはジェンダー視点を持ったプロダクティブヘルスの取り組みもまた重要な健康課題とされている。

この地域において、看護専門職者が各ライフステージにある人々の多様な健康ニーズに応え、看護を提供するためには、地理的文化的風土を視座に入れた全人的な看護アプローチが必要不可欠である。また、地域から世界へと発信するグローバルな観点から、看護実践及び研究における地域性を発揮し、それに根ざした看護理論や研究手法の開発を目指す研究者の育成も期待されている。

② 放射線技術科学領域の視点から

現在、多くの地域医療機関は、放射線技術科学の広い知識と高い研究能力を備え、かつ指導的役割が果せる放射線従事者を求めている。また、学際的視座から新たな研究分野を開拓し、次世代の医療用診断支援システムの構築に寄与するなど技術開発を推進できる教育研究者の数は未だ少なく、その必要性が指摘されている。更には、放射線医師が少ない現状で、画像診断や放射線治療等の業務を支援できる高度医療専門職者の数も少なく、その養成が求められている。

一方、新潟県には豪雪に見舞われる中山間地域があり、このような地区は人口の過疎化と高齢化が進行している。放射線技術科学の研究を通して、遠隔医療診断機器及び情報システムを開発し、新たな医療診断情報ネットワークを確立することは、過疎

地域に住む人々の健康支援並びに健康管理に貢献するものと期待される。それは同様の問題を抱える新潟近県山間地域の医療にも有力な指針を与えることになると思われる。

③ 検査技術科学領域の視点から

生活様式の変化に伴う生活習慣病の増加，国境を越えた人の移動が活発化する中で，輸入感染症の多発，地球規模での新興・再興感染症の蔓延など，疾病構造には大きな変化がみられる。生活習慣病の中には，早期診断が予防医学上重要な疾患も少なくなく，それに対応できる検査技術の開発が期待されている。また，新潟は，環日本海圏の諸国や台湾とを結ぶ空路並びに海路が開港されていることから，輸入感染症への対応策が求められ，病原体解析方法の確立はその一助になると考えられる。このような背景から，検査技術の開発発展に積極的に取り組む教育研究者や高度医療専門職者の育成が求められる。

④ 社会人教育の視点から

新潟県には保健学領域に関連する博士課程は未設置であり，そのために十分な実務経験と研究能力をもつ医療職者に対して，社会人入学の形で修士課程よりさらに高度の教育の場を提供することは不可能であった。新潟大学に保健学研究科博士後期課程が設置されたとき，医療職者は在職身分の状態での学習と研究が可能となり，密度の濃い指導を通じて自らの研究手法と専門領域を確立し，修了後は研究能力を有する高度の高度医療専門職者として地域医療に貢献することが期待される。

⑤ 地域医療貢献の視点から

看護学，放射線技術科学，検査技術科学の各分野を網羅する大学院修士課程を有する本学は，保健学に関連する多様な人材の育成に取りかけられる環境にある。同様の高度教育機関は新潟県及び東北六県において，本学を含めて2校のみであり（資料1，2）さらに博士課程を設置することは，新潟県を含め，広く東北地方の地域医療への貢献が期待できる。

⑥ 地方公共団体等からの要請

新潟県，新潟市等の地方公共団体及び各専門職の団体から，資料3のとおり大学院設置が強く求められている。

(3) 教育的二一ズ

新潟大学医学部保健学科の前身である新潟大学医療技術短期大学部は，昭和49年6月に全国5番目の国立大学併設短期大学部（3年制）として設置された。以来，看護師，助産師，診療放射線技師及び臨床検査技師を育成し，新潟県下だけでなく，関東諸県及び首都圏をはじめとして全国に4300余名の人材を輩出してきた。平成11年10月医療技術短期大学部が医学部保健学科に改組転換され，それに伴い教員の質的・量的強化と施設の拡充が図られたことにより，教育内容は充実し，かつ総合大学としての利点を生かしての教育研究が推し進められてきた。

さらに，平成16年4月には，県，市，各種団体等地域からの強い要望を背景に，県下では初めての大学院保健学研究科（修士課程）が設置され（資料4），高度医療専門職者の育成等を目標として，社会人を積極的に受け入れての修士課程教育を進めてきた。学士課程並びに修士課程で培われ，蓄積された保健医療に関する教育研究成果を博士課

程においてさらに深化発展させ、創造性に富む教育研究を遂行することにより、自立して研究活動を行う能力をもつ教育研究者を育成することは保健学に新たな展開を約束するものである。そのためにも、既設の修士課程を基盤としてさらに高度な内容の教育と研究を推進する大学院博士後期課程を本学に設置することが必要と考える。

4 期待される効果

大学院保健学研究科博士後期課程が設置されたとき、看護学、放射線技術科学及び検査技術科学の各分野において以下に示すような効果がもたらされ、それは疾病の予防と健康支援に寄与すると考えられる。

(1) 研究・技術開発への貢献

本課程での教育研究により、高度かつ専門的な保健学の知識と技術を修得するとともに、新しい学問分野の開拓や新しい技術の開発に主体的に取り組む資質を涵養することができる。従って、本課程修了者は、各分野においてそれぞれの専門領域における研究と技術開発に貢献できる。

(2) 教育レベルの向上に貢献

高度な技術と知識を修得し、自立して研究活動を行う能力を身につけた本課程修了者は、保健医療学分野の大学や大学院において、優れた教育者として学生の教育と研究指導に活躍することができ、本分野の教育レベルの向上に貢献できる。

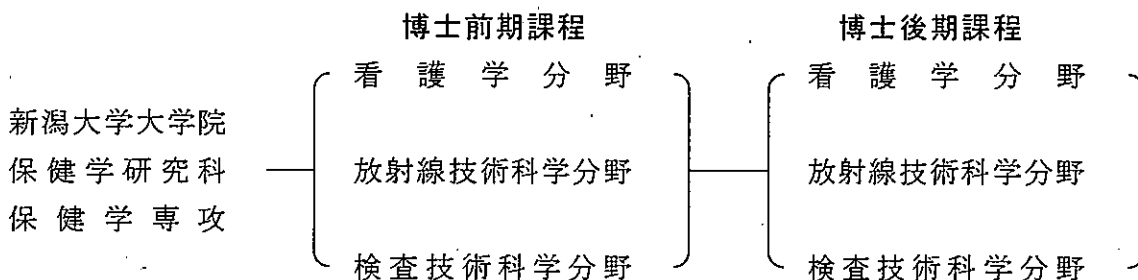
(3) 高い専門性の展開

本課程の教育研究により、高度な保健学の知識と技術を修得するのみならず、専門領域で直面する種々の疑問点や問題点を明らかにし、その自主的かつ積極的に解決する能力を身につけることができる。本課程修了生が指導的立場から高度医療専門職者として活躍するとき、その職場における問題解決能力が向上し、高い専門性の展開と維持が期待できる。

II 研究科、専攻等の名称及び学位の名称

1 組織構成と名称

平成16年4月本学に看護学、放射線技術科学及び検査技術科学の3分野で構成される保健学研究科保健学専攻修士課程（Graduate School of Health Sciences, Master's Program of Health Sciences）が設置された。既設の修士課程を博士前期課程と改称し、新たに保健学専攻に同じ3分野で構成される博士後期課程（Doctoral Program of Health Sciences）を設置する。



2 学位の名称

学位の名称は博士（保健学）（Doctor of Philosophy（Health Sciences））とする。

3 研究科・専攻・学位等の名称を「保健学」とする理由

個人並びに集団における健康支援と疾病の予防を積極的に推進し、健康寿命の延伸と生命の質の向上をはかることを通して、保健学の発展に貢献する人材を育成することを目的とすることから、研究科・専攻・学位の何れの名称も保健学とする。

1 専攻3分野とすることにより、「健康支援と疾病の予防」という共通目標のもとで、分野相互で補完的かつ協同的に研究活動を行うことにより、教育研究に幅と深さが増すと考えられる。特に、放射線技術科学と検査技術科学においては、理学・工学の技術を応用する医療学という点で、共通の性格を合わせ持っており、両者を1つの学問体系として位置づけることにより、新たな教育研究分野を開拓することも可能と考えられる。このような観点から共通コア科目として3分野教員がオムニバスで担当する「生命と生活の健康科学」を配置する。また研究支持科目においても原則として3分野共通とし、4科目中から1科目を選択するものとする。

III 教育課程の編成の考え方及び特色

1 3分野共通コア科目

「保健学は生命と生活に関する健康事象を研究する学際的学問」という共通認識のもとに、保健学の使命と視座を修得し、俯瞰的な視野を持って研究に取り組む能力を涵養するために、3分野共通コア科目として「生命と生活の健康科学」を配置する。そこでは予防医学・保健医療を中心に“病気になりにくい体作りと社会作りの科学”を教授し、生命と健康に関わる倫理的問題も取り上げる。また、保健学という共通概念のもとで高度医療専門職者としての連携と協働の視点を獲得し、学際的な研究や実践活動の新知見を学習する。

なお担当は3分野の教員として、授業はオムニバス形式の講義形態で行う。以下に講義内容並びにテーマと担当分野を示す。

- ・ 遺伝子レベルや分子レベルでの生命科学的知見を基盤としての予防医学
[国際感染症の予防対策](検査), [遺伝子解析と疾病予防](検査)
- ・ 集団の健康と生活習慣に係わる疫学的視点からの予防医学（一次予防）
[疫学調査](看護), [生活習慣病とその予防](看護)
- ・ 早期発見に有用でかつ費用効果的な検査法の開発
[遺伝子解析と疾病予防](検査)
- ・ 健康問題を有する人に対する QOL や ADL の向上（三次予防）
[ライフステージと健康支援](看護)
- ・ 個人のデータ管理と情報通信システムの確立による健康管理
[医療情報システム](放射)
- ・ 医療の発展とともに進化し変遷する生命倫理上の諸問題
[生命倫理](看護)

2 研究支持科目

「看護学研究法」、「ケア技術開発法」、「保健学情報解析法」及び「研究倫理」の4科

目を配置し、内1科目を選択必修とする。これらの科目履修を通じて、博士後期課程における基本的な研究手法や倫理的配慮等を学び、同時に教育研究者または高度医療専門職者に必要な自立的かつ自律的な研究姿勢を培う。

「看護学研究法」及び「ケア技術開発法」は共に、看護学分野を履修する学生を受講対象とする科目であり、前者は教育研究者を志向する学生を、後者は高度医療専門職者を志向する学生を念頭においた内容で構成されている。両科目ともに、看護倫理及び研究倫理をベースとし、「看護学研究法」では研究法の開発を目指すという観点から質的及び量的研究法を体系的に学び、「ケア技術開発法」では看護ケアの検証と技術開発の観点で、先駆的な看護介入法を学習する。なお両科目ともに、修士課程修了者及び社会人入学生の何れにも対応できる内容としている。

「保健学情報解析法」と「研究倫理」は、主に放射線技術科学分野並びに検査技術科学分野を履修する学生を対象とする科目であり、前者は高度医療専門職者を志向する学生の受講を、後者は教育研究者を志向する学生の受講を想定した内容とする。すなわち、「保健学情報解析法」では、臨床的研究を遂行する上で必要な高度医療統計学や倫理的配慮等について学び、「研究倫理」では、科学研究を遂行する際に重要な人間の尊厳とそれに関わる研究者の姿勢について学習する。

3 専門科目

(1) 看護学分野

各ライフステージにおける個人や家族を対象に、健康支援に関する看護独自の援助技術を開発するとともに、地域の文化・風土や開発途上国の特性を視野に入れての看護実践及び看護理論や研究手法に新たな展開をもたらすことを課題として、それに対応できる教育研究者あるいは高度医療専門職者を育成するために以下の授業科目を配置する。

個人や家族の健康支援とコミュニティや国際レベルの健康支援の見地から、2つの領域からなる専門科目で構成する。「小児・女性看護学特講」及び「小児・女性看護学特講演習」は、小児の成長発達への支援、母子及び女性のメンタルヘルスと生涯を通じた健康支援を対象領域とする。本科目の特色は、障害児や慢性疾患児、不妊の女性や性の健康など、心身両面の特有で特殊な支援ニーズをもつ個人及び家族に特化し、地域密着型の支援理論やケア技術の確立に向けて、創造的な研究が行えるよう基礎能力を養うことである。「地域・国際看護学特講」及び「地域・国際看護学特講演習」は、組織や集団レベル、あるいは地域や国際レベルでの健康支援を専門領域とする。本科目の特色は、グローバルな視座から、生活習慣病に対する看護の予防介入と評価尺度の開発、介護支援方策の構築、発展途上国の女性の健康支援における看護戦略と介入方策について創造的な研究が行えるよう基礎能力を養うことである。

それぞれの特講を通じて、自己の研究課題の方向性を具現化する。さらに特講演習では、批判的思考アプローチによる文献精読、質的・量的研究手法の訓練、論文表現力の涵養等を行う。特色として、「小児・女性看護学特講演習」は主に質的研究法、「地域・国際看護学特講演習」は主に量的研究法にウエイトをおいて、研究技法のスキルトレーニングを行う。これらの特講演習を通じて研究を進めていくうえでの知識とスキルを獲得する。

「保健学特定研究（看護学）」では学生各自が設定したテーマについて研究指導教員

の指導を受けながら研究をすすめる。この場合、研究指導補佐教員は研究指導教員との連携のもとに、研究計画の妥当性の検討、定期的な研究進捗状況の点検、並びに学会報告や科学雑誌投稿の技術指導等の研究支援を行う。また専門を異にする教員や他学部の教員を交えて、さらに高度医療専門職者を志向する学生の研究については学外実務家を加えて、定期的に中間発表を行う。このような過程で、多面的な視点から研究内容の検討を行いつつ研究を完成させていく。

以上の如く本分野で履修する学生は、『共通コア科目』で保健学の使命を学び、『研究支持科目』で教育研究者又は実践家志向それぞれに適う基本的な研究手法を習得し、『専門科目（特講・特講演習）』では特化した内容を各々の志向に見合う形で学習する。教育課程はこの様な一連のコースワークと、それと併行して進められるリサーチワーク「保健学特定研究」とで編成されている。

(2) 放射線技術科学分野

本分野では先端医療機器や新たな診断技術を開発するとともに、生体機能の新しい解析法とその理論の構築や次世代医用画像診断支援システムの開発や応用を積極的に推進することを課題として、それに対応できる企業における研究者や大学等における教育研究者、または高度医療専門職者を育成するために以下の4つの領域からなる授業科目を配置する。

「医用物理学特講」では画像診断評価手法の開発や治療方法の開拓について修得する。また、新たな医療診断機器を開発するため基礎的研究や放射線画像機器における物理特性の測定及びその評価を通して画像診断における非侵襲性と精密度を向上させるための先端研究について学ぶ。「生体機能情報解析学特講」では放射線、電磁波及び超音波等に基づいた医療診断装置によりナノからマクロに至る生体機能に関して生体医工学的に解析する理論を構築し、新たな手法を開発する知識を学ぶ。更には放射性薬剤を利用した核医学診断を用いて腫瘍、心臓疾患、脳血管障害等の情報を的確に解析する手法について学ぶ。「臨床画像診断学特講」ではCT、MRI、SPECT、PETなどの画像検査所見と臨床像、病理形態像、並びに機能面との関係及び診断能を高めるための方法論について学ぶ。「医用画像情報学特講」では、放射線、電磁波、超音波などの媒体を用いて得た画像情報を異なる角度から処理・加工する技術、解析手法の開発とその応用について学ぶと共に、診断支援システムやネットワークシステムの構築法の開発について修得する。以上の各授業科目は、各分野に関する専門的知識を身に付けるとともに、幅広い視野を修得できる講義内容であり、研究者養成だけでなく、高度医療専門職者養成にも対応できるものである。これらの講義と併行して行われる演習においては、研究者志向の者に対しては研究能力の育成に必要な理論構築や技術開発に関する方法論の内容を含んだものとし、高度医療専門職者志向の者に対しては、先端理論と技術の応用並びにその有効性に重点をおいたものとする。

「保健学特定研究（放射線技術科学）」では、学生各自が設定したテーマについて研究指導教員の指導を受けながら研究を進める。研究指導教員は研究指導補佐教員との連携のもとに、研究計画の妥当性の検討、定期的な研究進捗状況の点検、並びに学会報告や科学雑誌投稿の技術指導等の研究支援を行う。また、専門を異にする教員を交えて行われる中間発表において、多面的な視点から研究内容の検討を行う。高度医療専門職者

を志向する学生の研究発表においては、学内外の病院や企業の実務経験の深い実践家を招き、意見交換を行う。

以上の如く本分野の教育課程は、『共通コア科目』を修得した上で、進路に応じて『研究支持科目』から1科目を選択し、『放射線技術科学専門科目』で特化した分野を修学する一連のコースワークと、これらと併行して「保健学特定研究」でリサーチワークを進めていく編成となっている。

(3) 検査技術科学分野

本分野では、「新興・再興感染症の早期診断と蔓延防止」及び「生活習慣病の早期診断」の2つの視点から、遺伝子検査、生体情報処理、病態病理検査、免疫学的及び血液学的検査の知識と技術を駆使して、迅速かつ高精度の検査方法を開発することができる教育研究者あるいは高度医療専門職者を育成するために以下の4つの領域からなる授業科目を設置する。

新興・再興感染症への対応と生活習慣病予防の視点より「ゲノム・微生物病態検査科学特講」、「生体システム機能検査科学特講」、「病態病理検査科学特講」、「免疫・血液病態検査科学特講」の4科目を配置し、それぞれの特講には演習科目を併置する。「ゲノム・微生物病態検査科学特講・同演習」では、感染源・感染経路の早期解明を目的として高度な遺伝子解析法と免疫学的手法を修得し、感染症迅速検査法の開発を行える研究能力を養う。「生体システム機能検査科学特講・同演習」では、高速光学技術、生体情報伝達のメカニズム、早期病態把握のための検査・評価方法を修得し、生体から得られる情報解析を基盤とした生活習慣病の新たな検査法の開発・研究の能力を養成する。「病態病理検査科学特講・同演習」では、本邦に多くみられる消化管癌をテーマとして、その病理学的解析法・遺伝子解析法を修得し、早期検査法の開発・進展予防のための病理学的検査技術の研究開発ができる力を養う。「免疫・血液病態検査科学特講・同演習」では、遺伝子解析法や培養技術を学び、糸球体腎炎の発症機構解析法・各種膠原病病態解析法、造血器悪性腫瘍の病型や予後因子の解析法を修得し、早期発見及び進展予防のための検査法の開発を行える能力を養成する。

以上のそれぞれの特講を通じて、自己の研究課題の方向性を獲得する。以上の各特講は、研究の展開ができるような幅広い領域の動向について教授し、各分野に関する専門的知識を身に付けるとともに高い研究能力を育むものであり、研究者養成とともに、高度医療専門職者養成にも対応するものである。これらの講義と併行して行われる演習では、教育研究者志向の学生に対しては、新しい検査技術を開発する上で必要な内容の演習を行い、また高度医療専門職者志向の学生に対しては最新の検査技術を有効に応用するための演習を行う。

「保健学特定研究（検査技術科学）」では、研究指導教員の指導を受けながら研究をすすめる。この場合、研究指導補佐教員は研究指導教員との連携のもとに、研究計画の妥当性の検討、定期的な研究進捗状況の点検、並びに学会報告や科学雑誌投稿の技術指導等の研究支援を行う。また専門を異にする教員を交えて行われる中間発表で、多面的な視点からの研究内容の検討を行いつつ研究を完成させていく。高度医療専門職者を志向する学生の研究発表においては、学内外の実務家を招き、意見交換を行う。

以上の如く本分野の教育課程は、『共通コア科目』を修得した上で、教育研究者育成

か高度医療専門職者育成かに応じて『研究支持科目』から1科目を選択し、『検査技術科学専門科目』で特化した分野を修学する一連のコースワークと、これらと併行して「保健学特定研究」でリサーチワークを進めていく編成となっている。

IV 教員組織の編成の考え方及び特色

3分野共通科目「生命と生活の健康科学」は保健医療・予防医学を中心とした内容とし、それぞれを専門とする看護系，理工学系及び基礎医学系の専任教員を配置する。研究支持科目である「看護学研究法」は全内容を，ケア技術開発法は一部を，その領域で卓越した業績を有する兼任講師が担当する。その他の授業科目は専門性や業績を重視して，何れも専任教員を配置する。また，「生命と生活の健康科学」講義中の「生命倫理」，並びに研究支持科目「研究倫理」は全て，医療倫理学の第一人者である本学専任教員が担当する。

なお，就任教員で設置時ならびに学年進行中定年になる者はおらず，規定上問題はない。以下に各分野の授業科目，担当教員及び主内容を示す。

1 研究支持科目

① 「看護学研究法」

戈木クレイグヒル滋子講師（兼任）：実践理論創出型の質的研究法
高木廣文講師（兼任）：看護方略・評価尺度開発型の量的研究法

② 「ケア技術開発法」

小坂橋喜久代講師（兼任）：全人的ケアの開発と検証
定方美恵子講師：看護の支援技術開発と実験的測定法

③ 「保健学情報解析法」

関 奈緒教授：保健学研究のための高度な統計学的手法と倫理的配慮

④ 「研究倫理」

宮坂道夫助教授：生命倫理，技術倫理及び環境倫理の理論的基盤と医療に関連する研究活動の倫理原則と法規

2 専門科目

1) 看護学分野

2科目共にオムニバス方式とする。

① 「小児・女性看護学特講」

渡邊タミ子教授：多胎児や慢性疾患児の親子・家族の支援
佐山光子教授：不妊看護や女性の性と生殖に関する健康支援
渡邊岸子助教授：対人関係援助と健康支援について
定方美恵子講師：女性の不定愁訴に対するケア技術開発法

② 「地域・国際看護学特講」

西山悦子教授：生活習慣病予防と健康支援，介護職者への技術教育
丹野かほる教授：開発途上国の女性の性と生殖に関する健康支援

以上の各特講と併行して行われる特講演習を通して，先端理論及び技術の構築並びにその有効性についてさらに理解を深めていく。

③ 保健学特定研究（看護学）

専任教員が集団指導体制の下に論文作成のプロセス（資料5）に従って、研究計画の妥当性と研究進捗状況を確認しつつ、研究指導を行う。

2) 放射線技術科学分野

特講と特講演習各4科目は専門の相異なる教員が担当するオムニバス方式とする。

① 「医用物理学特講」

和田眞一教授：医学物理領域における画像評価手法の開発

日向浩助教授：腫瘍に対する放射線治療の効果判定

川瀬俊為教授：レーザー分光光学に関する基本特性

斉藤正敏助教授：放射線画像機器の物理特性の測定及びその評価

② 「生体機能情報解析学特講」

坂本信教授・大久保真樹助教授：放射線、電磁波及び超音波による医療診断装置を用いた生体構造機能の解析手法

高橋俊博教授：放射性薬剤を利用した核医学診断を用いて腫瘍、心臓疾患、脳血管障害の情報を解析する手法

③ 「臨床画像診断学特講」

木村元政教授・栢森亮教授：CT, MRI, SPECT, PET の画像検査所見と臨床像、病理形態像、並びに機能面との関係及び診断能を高めるための方法論

④ 「医用画像情報学特講」

佐井篤儀教授・関谷勝助教授：放射線、電磁波、超音波等の媒体を用いて得た画像情報を処理・加工する技術、解析手法の開発と応用、診断支援システムやネットワークシステムの構築法

以上の各特講と併行して行われる特講演習を通して、先端理論及び技術の構築並びにその有効性について更に理解を深めていく。

⑤ 保健学特定研究（放射線技術科学）

専任教員が集団指導体制の下に論文作成のプロセス（資料5）に従って、研究計画の妥当性と研究進捗状況を確認しつつ、研究指導を行う。

3) 検査技術科学分野

特講と特講演習各4科目は専門の相異なる教員が担当するオムニバス方式とする。

① 「ゲノム・微生物病態検査科学特講」

高橋由明教授：ゲノム解析法、プロテオーム解析法及び遺伝子診断法とその応用技術

寺尾通徳助教授：感染に至る経緯や感染因子の動向と宿主の免疫機構との関連性、感染時生体から得られる情報の解析法及び感染の予防法

② 「生体システム機能検査科学特講」

藤原直士教授：細胞内小器官から各臓器に至るまでの機能情報の迅速計測・解析法の開発

仲澤幹雄教授：生体の恒常性維持機構と疾病の関連

渡邊雅史助教授：超音波検査装置を用いた腹部臓器疾患の最新の検査技術

池主雅臣助教授：循環器疾患の予防、生活習慣が関係する冠血管障害の早期検査法

の開発

③ 「病態病理検査科学特講」

平野茂樹教授：走査電子顕微鏡や蛍光顕微鏡をはじめとする各種顕微鏡を駆使しての細胞・組織の解析方法

岩淵三哉教授：種々の炎症性疾患と腫瘍の形態的变化とその差異の解析、炎症から腫瘍への進展に関係する因子とその阻止に関する研究

④ 「免疫・血液病態検査科学特講」

折笠道昭教授：糸球体腎炎発症機序についての細胞培養法や免疫学的手法を用いた解析法と早期検査法の開発

中野正明教授：各種膠原病を対象とした自己抗体による病型分類や自己抗体と臓器障害との関連

高橋益廣教授：造血器悪性腫瘍の病型診断や抗腫瘍免疫能の評価のための検査技術

成田美和子助教授：腫瘍に対する生体の免疫能を高めることによる治療及び発症予防の可能性

以上の各特講と併行して行われる演習を通して、先端理論及び技術の構築並びにその有効性についてさらに理解を深めていく。

⑤ 保健学特定研究（検査技術科学）

専任教員が集団指導体制の下に論文作成のプロセス（資料5）に従って、研究計画の妥当性と研究進捗状況を確認しつつ、研究指導を行う。

V 履修指導、研究指導の方法及び修了要件

1 教育研究指導体制

研究指導教員1名と研究指導補佐教員2名による指導責任体制を敷く。特定研究において、研究指導教員を中心として研究指導を行うが、研究指導補佐教員は研究指導教員と連携のもとに、必要に応じて研究遂行や論文作成に助言を行う。また研究指導教員は学生が研究指導補佐教員以外の教員から、研究に必要な技術や知識に関する指導が得られるような体制づくりをする。研究科長は研究指導にあたり必要と認めた場合は、研究科委員会の議を経て研究指導教員の変更ができる。

2 論文作成へ向けての指導プロセス（資料5）

研究科委員会は学生の意見・要望を聴取し、研究領域及び研究課題について協議する。その結果を踏まえ、同委員会は研究指導教員及び研究指導補佐教員を決定し、研究指導委員会（当該分野の特定研究担当教員及び研究指導教員が依頼する教員で構成）を設置する。学生は先行研究及び文献を参考に、研究指導教員の指示を受けながら仮説を設定し研究計画を1年次終了までに立案する。これらと併行し1年次前期に共通コア科目、研究支持科目、特講・特講演習を履修し、研究課題に関連する知識や技法を修得する。1年次後期に、研究計画の論理性と倫理性の両面について研究科倫理委員会並びに研究指導委員会において審査し、承認され次第研究を開始する。研究計画の立案と実施は主に研究指導教員及び研究指導補佐教員の指導のもとで行われるが、進捗状況の定期的確認等については、その領域に所属する複数の教員や研究指導委員会で行う。このように、研究指導教員及び研究

指導補佐教員を中心とする集団指導体制のもとに、研究を遂行し、その経過と展望を6～12ヶ月毎に中間発表しつつ、博士論文を完成させていく。

3 博士論文の提出と審査

作成された博士論文は所定の書類とともに研究科長に提出する。受理した博士論文に対して研究科委員会において複数の審査委員を選出し審査する。審査過程として、予備審査後に博士論文公聴会、最終審査及び最終試験を行い、その結果を研究科委員会に報告する。研究科委員会では学位授与に関して審議し議決する。

4 修了の要件

(1) 本研究科に3年以上在学し、所定の単位(12単位以上)を修得後、必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

(2) 学位記の交付

研究科委員会で学位授与を認定した場合、その結果を学長に報告し、学長より博士(保健学)(Doctor of Philosophy (Health Sciences))の学位記が交付される。

5 取得すべき単位

博士後期課程の学生が修了認定を受けるために修得すべき単位は12単位であり、その内訳は以下のとおりとする。

必修科目	6単位	(研究指導教員の指定する専門科目4単位を含む)
選択科目	2単位	(研究支持科目2科目より1科目選択)
特定研究	4単位	

6 授業科目の概要

資料6の「授業科目一覧表」のとおり看護学分野、放射線技術科学分野及び検査技術科学分野の専門科目(特講・特講演習及び特定研究)を開設する。

なお、授業科目の講義内容等は、別記のとおりである。

7 履修例

履修モデルは資料7に示した。

VI 施設・設備等の整備計画

講義室等の施設、機械・器具等の整備計画については、保健学専攻の理念目標に合致した教育、研究ができるような内容に整備をすすめる。施設に関しては、各講義室、実習室にAV機器、及び情報ネットワークを整備する。また、機器については、看護学分野ではケア技術検証システム(生体反応計測及び環境・刺激測定システム)を、放射線技術科学分野ではヘリカルCTスキャナを、また検査技術科学分野では細胞・分子解析システム(フローサイトメトリー、ライトサイクラー及び画像解析PCシステムからなる)をそれぞれ整備する。

新潟大学医歯学図書館における図書等の資料については、大学院医歯学総合研究科と共有し、相互に利用することを念頭において整備をすすめる。現在、医歯学図書館における蔵書数は37万冊であるが、今後も、国際的に評価の高い書籍を中心に内容の充実に努める。デジタルデータベースや電子ジャーナル等の整備は、先端的な教育・研究を行うには不可欠であり、今後とも拡大整備を行う。現在、本学図書館で利用できる外国電子ジャーナルのタイトル総数は16,960で全国国立大学中第2位にあるが、最新の知見をリアルタイムに入手し、研

究に応用できるような環境づくりを継続して行う。

新潟大学医歯学図書館は、閲覧室の面積が1,267㎡、閲覧席は151席あり、レファレンスコーナーを設置している。資料検索手法については、所蔵検索、データベース、データベースディレクトリー、雑誌目次情報等が整備されている。多くの大学図書館において「学生証」の提示により他大学の学生であっても利用することができ、また、文献複写・相互貸借サービスにより他大学の資料を入手することも可能である。

大学院学生の研究室については、保健学科校舎にある大学院生研究室5室（77㎡、40㎡、29㎡、24㎡、24㎡：延べ194㎡）のうち1室（77㎡）を博士後期課程大学院生専用とし、IT機器の有効活用可能なLAN配線等の設備を整備する。また、保健学科校舎及び新潟大学医歯学総合病院内のゼミナール室（4室：各24㎡、計96㎡）や医歯学図書館（建物延べ面積4,237㎡）の閲覧室と自習スペースをも使用する。演習については、保健学科校舎の中の実験室、演習室（演習準備室を含む）、新潟大学医歯学総合病院内の施設（病棟、外来棟、学生教育用器材室、など）を利用する（資料8）。

Ⅶ 既設の学部及び修士課程との関係

既設の学部及び修士課程（博士前期課程）と博士後期課程とのカリキュラムの関係については資料9に示すように、学部の各専門科目に対応する修士課程（前期課程）の特論・演習・実習を設定し、修士課程（博士前期課程）の各特論・演習・実習を単一、もしくは2～3科目を組み合わせたものに対応する後期課程の特講・特講演習を設定している。

看護学分野では、学部専門科目を裾野として、修士課程（博士前期課程）の「小児看護学」、「母性看護学」、「基礎看護学」の各専門科目の履修を通して、看護ケアの基盤となる人間関係や科学的な看護方法論、更に生涯発達の観点から小児とその親、女性、家族に対する健康問題とその援助方法に関する方法論ならびに研究的手法等を修得する。これらを基盤として、後期課程の「小児・女性看護学」においては、各ライフステージにおける個人と家族を対象に、健康レベルに応じた母子並びに女性、家族までを包摂する健康支援のための理論創出とケア技術の開発を目指せるように設定している。また、修士課程（博士前期課程）の「地域看護学」、「国際看護学」、「成人看護学」の各専門科目の履修を通して、成人期を中心とした生活習慣病の予防や健康増進に対する健康教育及び支援技術、更にはコミュニティや国際的なレベルに焦点を当てた支援方策の諸理論や研究手法等を修得する。これらを基盤として、後期課程の「地域・国際看護学」においては、地域や国境を越えた国際レベルでの特性を考慮した健康行動の指標づくりや看護介入のための方法論の策定などが行えるように設定している。

また、放射線技術科学分野と検査技術科学分野においても、同様に学部及び修士課程（博士前期課程）と博士後期課程を有機的に結び、両分野とも博士後期課程に4科目の特講・特講演習を設定して、修士課程（博士前期課程）で培われた健康支援や疾病予防に関する研究成果をさらに深化発展させ、新しい検査技術の開発やその展開を図ることができるように設定している。

以上のごとく、本保健学研究科では、学部及び修士課程（博士前期課程）と博士後期課程が有機的に結びつく一貫した教育を行い、保健学に関する教育研究者ならびに創造性に富み自立的な研究能力を有する高度医療専門職者を養成するものである。

Ⅷ 入学者選抜の概要等

1 入学定員

学生入学定員は6人とする。入学定員のうち若干人を社会人特別入学として受け入れる。ここで、社会人とは、入学時に医療・保健・福祉施設、教育研究機関、官公庁または企業等において、大学卒業後3年以上相当の専門的な実務経験（通算可）を有する者で、次項入学資格の各号のいずれかに該当し、入学後もその身分を継続するものである。

なお、入学定員6名の内訳は、各分野2名程度を目安とし、特定の分野に偏らないよう配慮するものとする。

2 入学資格

入学資格は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 修士の学位または専門職学位を有する者
- (2) 外国において修士の学位または専門職学位に相当する学位を授与された者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
- (4) 大学を卒業し、大学、研究所等において、2年以上研究に従事した者で、研究科において、当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者
- (5) 外国において学校教育における16年の課程を修了した後、又は外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した後、大学、研究所等において、2年以上研究に従事した者で、研究科において、当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めたもの
- (6) 本研究科において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有するものと同等以上の学力があると認められた者で、24歳に達した者

3 入学者選抜

(1) 方法

学力検査（専門科目、外国語、小論文）、面接及び提出書類により総合的に判定する。

(2) 学生受け入れ方針

ア 求める学生像

医療技術者として必要な教養と素養を持ち、看護学、放射線技術科学または検査技術科学に関連する基礎的な知識、専門科目の履修に必要な基礎学力及び語学力（英語）を有し、専門分野への深い関心と強い目的意識を持ち合わせた学生を求める。

イ 選抜制度の工夫

選抜試験においては、共通の選考基準を用いるのではなく、受験生個人について、基礎知識、経験、資質を総合的に評価できるような選抜方法を設定する。

4 社会人の受け入れ方法

社会人特別選抜方法を設け、学力検査（専門科目、外国語、小論文）、面接及び業績調書等により総合的に判断する。ただし外国語は学力検査から免除することがある。

保健学系大学院には、教育研究者の育成だけでなく、高度医療専門職者として実践の場

で指導的役割ができる人材の育成も求められている。更に、大学院は既に社会で活躍している人材を再教育することによって、より高いレベルの専門知識・技術を獲得させ、それを再び現場に還元することも重要な役割である。修士課程の修了者が、そのまま医療・保健・福祉施設や教育研究機関において職務を継続しつつ、博士課程に進学し、更に高度の資質の獲得を目指すことが考えられ、博士後期課程に社会人の受け入れ体制を準備することが必要である。特に実践の科学といわれる看護学分野においては、実践に根ざした研究が重要であり、看護現場を離れないで教育研究できる場を提供する必要がある。したがって、社会人特別選抜の実施及び「大学院設置基準第14条に基づく教育方法の特例」を導入し、社会人を有職の状態で積極的に受け入れる方針である。なお、中央教育審議会「大学等における社会人受入れの推進方策について」答申概要（平成14年2月21日）に示されている、長期履修学生制度については、現在修士課程で導入しているが、有職者の学習機会を更に拡大するため、博士後期課程この制度を取り入れる。

Ⅸ 大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例の実施について

1 目的

医療の現場で活躍している医療従事者の中には、社会人入学や研究生として、大学院での再教育を希望する者が少なくない。その多くは自らの技術を更に錬磨し、知識をリフレッシュすることにより研究能力を有する高度医療専門職者となることを目指している。これらの要請に応えるために、夜間等特定の時間帯、または特定の時期に授業及び研究指導を行い、職を辞さず学べる教育環境を整備し、有職者の再教育に対応する必要がある。このような観点から本研究科修士課程においては、既に大学院設置基準第14条特例によって社会人教育を行っているが、博士課程においても同特例を導入し、有職者社会人に対して大学院の門戸を開放する。

2 修業年限

標準修業年限は、3年とし、全期間に14条特例を適用する。ただし長期履修を希望する場合は、研究指導教員と協議し、研究科長の許可を得ることにより、6年を限度として一定の期間にわたり教育課程を履修できるものとする。

3 教育・研究方法

(1) 履修方法・授業の実施方法

保健学専攻（博士後期課程）では、第3年次末までに12単位以上を取得しなければならないが、教育方法の特例の適用を受けた学生は、夜間その他特定の時間又は時期において開講する授業科目から12単位以上を履修し、取得するものとする。授業は社会人への便宜を図るため、できるだけ昼夜間に重複して開講する。夜間は、第6時限（18：05～19：35）及び第7時限（19：50～21：20）に開講する。また、教育方法の特例実施のため、夏期休業期間等、社会人の多くが休暇等をまとめてとりやすい8月に集中講義を設定することにより、単位取得の便宜を図る。なお具体的授業時間割表（案）については資料10に示す。

(2) 研究指導

保健学専攻（博士後期課程）で研究指導を担当する教員は、昼間の授業及び研究指導

後も夜間まで自身の研究を行っているのが通常であり、有職の学生が指導教員に夜間その他特定の時間又は時期に研究指導を受けることは困難ではない。

また、職場における研究成果を活用できるテーマを取り入れた研究指導を行い、博士後期課程における研究の高度化と効率化を図る。

更に、保健学専攻（博士後期課程）では、コンピュータ・ネットワークを活用して、文献検索、データ処理をはじめ有職学生との情報交換を常に行うことで、より効率的に研究指導を行うことができる。また、本学の図書館では、すでに夜間開館、休日開館を行っており、社会人の教育・研究に十分活用できる体制が整備されている。

(3) 施設・設備の利用

保健学専攻（博士後期課程）においては、昼夜を通しての研究室・実験室の開放を予定しており、使用については何らの障害はなく、教育・研究の推進に支障はないと考える。また、データ整理や論文作成のために大学院博士後期課程専用の研究室を設けることにしている。

4 教員の負担の程度

昼夜開講制に際して十分な教育研究指導が行えるよう、修士課程同様、博士後期課程においても、担当教員全員が14条特例による授業を実施する。また、昼夜開講する授業科目は、教員1人あたり修士課程と合わせて3科目程度とするとともに、開講する曜日・時限を調整することにより、教員の負担の軽減を図る。

5 図書館・情報処理施設等の利用確保

(1) 図書館

医歯学図書館は、全日24時間開館し、教育・研究に支障がないよう配慮がなされている。

(2) 情報処理施設

本学には総合情報処理センターがあり、各学部・研究科とも多数のワークステーションが配置されている。昼夜を問わず休日でも各研究室の端末から大型計算機、ワークステーションにアクセスできるようになっており、教育・研究に支障がないよう配慮がなされている。

6 入学者選抜方法

教育方法の特例を適用させる社会人を対象とした入学定員は、入学定員のうちの若干人とする。

社会人の選抜は特別選抜により実施するものとし、社会経験を評価する試験を行う。

(1) 出願書類に「研究業績目録」及び「研究概要」を加え、選考の際、評価する。また、「研究経過報告書」を作成させ、各学生の入学後の研究テーマを的確に把握できるよう努力する。

(2) 試験は、口述試問を中心に行う。

7 学生の厚生に対する配慮

修士課程大学院に在籍する学生については、学生教育研究災害保険への加入を積極的に勧誘しており、学生が安心して教育・研究に従事できるようにしている。大学院生に対する健康診断については、全員が受診できるよう、保健管理センターとの連携を図り、時間帯の調整を行う。学生相談室では、相談員が学生生活における諸問題について相談・助言

- ・指導を行っている。また、保健管理センターでは、保健管理医・カウンセラーが身体的・精神的な健康相談・助言・指導を行っている。

昼夜開講に対する事務部の体制については、勤務時間の割り振りを変更することによって対応する。

X 自己点検・評価

1 大学としての実施状況

新潟大学では、平成3年6月に評議会の下に「自己評価検討委員会」を設置して検討を開始し、平成4年1月の中間報告を経て、平成4年7月に「本学における自己点検・自己評価の実施について」の最終報告案が提出され、「新潟大学自己点検・自己評価実施要綱」を制定及び「新潟大学全学自己点検・自己評価委員会」を設置した。

この後、平成4年9月には「全学自己点検・自己評価委員会」を開催し、学内各部局を含めた大学全体として自己点検・自己評価活動が開始された。

平成10年10月の大学審議会答申において、四つの基本理念が示され、その一つとして、「多元的な評価システムの確立ー大学の個性化と教育研究の不断の改善ー」が掲げられた。

新潟大学では、平成11年9月から、全学点検・評価委員会において、「今後の点検・評価のあり方」について検討が重ねられ、平成12年4月に学内における客観的評価機関として「新潟大学評価委員会」を設置し、平成13年11月に学内各部局の「教育評価」を実施して教育改革を促すとともに、平成15年度には評価による学内資源配分の試行を行い、さらなる自己改革を促してきた。

この間、新潟大学は大学評価・学位授与機構から3年間の試行評価の対象となるが、平成14年8月に中央教育審議会は「大学の質の保証に係る新たなシステムの構築について(答申)」を公表し、「認証評価機関」による評価の義務化などが提言された。

このような状況の中、新潟大学は国立大学法人化を見据えつつ検討を行い、平成16年4月、「評価センター」を設置し、「新潟大学評価委員会」を廃止する改革を行った。「評価センター」は、大学評価の企画及び調査研究を行い、効果的な点検・評価システムを構築するとともに、大学評価情報の収集、調査、分析、提供を行い、新潟大学の全学的な点検・評価活動を支援することを目的とするが、企画戦略本部内に学長直属組織として設置することにより、より機動的な活動を図ったものである。平成16年6月には、学長裁量経費の一部について配分評価基準を作成し、中期目標・中期計画実現の一助となるため、活動を開始している。

活動状況とその公表

(1) 自己点検・評価報告書(第1号)について

- ・「教育研究の充実と発展に向けて 1994年」の刊行 (平成7年1月)

第1回目の自己点検・評価報告書は、平成6年12月に評議会に報告された後、文部省及び各国立大学等関係機関をはじめとして、地方公共団体や高等学校、報道機関、民間団体、企業などに公表した。

(2) 相互評価について

- ・「平成8年度 相互評価 点検・評価報告書」の刊行 (平成8年8月)

平成6年度に実施した、大学全体の自己点検・自己評価の結果を受け、平成8年度に大学基準協会が新たに構築したシステムにより「相互評価」に申請した。

その結果、平成9年3月に同協会から「大学基準に適合している。」ものとして「相互評価の認定を行うことが適当である。」との判定を得た。

また、同協会の判定結果及び指摘を受けた事項について、評議会等に報告するとともに、全学的な委員会において検討を進め、改善充実に向け鋭意取り組み、平成12年7月に改善報告書を提出している。

(3) 自己点検・評価報告書（第2号）について

・「教育研究の充実と発展に向けて 1999年」の刊行（平成11年4月）

平成10年4月に、第2回目の自己点検・評価を新たな視点から行うため、点検・評価項目や実施方法の見直しを行った。また、新たな試みとして絶対評価によるグレード評価を導入した。報告書は平成11年3月に評議会に報告された後、外部に公表した。

(4) 大学評価・学位授与機構による大学評価について

平成12年度から大学評価・学位授与機構による大学評価が開始された。新潟大学は、全学テーマ別評価とともに、以下の分野別評価の対象となっている。

平成12年度着手分 分野別教育評価「理学系」

理学部、大学院自然科学研究科の一部専攻

平成13年度着手分 分野別教育評価「法学系」

法学部、大学院法学研究科

平成14年度着手分 分野別研究評価「農学系」

農学部、大学院自然科学研究科の一部専攻

(5) 「教育評価」の実施について

平成12年4月に設置された「新潟大学評価委員会」による学内における客観的評価として、平成13年11月に「教育評価」を実施した。

その評価方法は、大学評価・学位授与機構の評価方法に準じつつも、本学独自の視点を加えたものである。被評価対象組織は、各学部、各大学院及び教養教育を単位として実施され、その結果は平成14年4月に評議会議長に報告の後、平成14年7月に新潟大学Webサイト上に公開した。

(6) 外部評価について

大学全体として平成8年度に大学基準協会の相互評価を受けているが、各部局においても積極的に実施しており、全学部、大学院現代社会文化研究科、大学院自然科学研究科、脳研究所、留学生センター及び積雪地域災害研究センターが実施済である。

2 医学部保健学科における実施状況

医学部保健学科の前身である医療技術短期大学部においては、新潟大学自己点検・自己評価委員会による自己点検・自己評価実施計画に基づき、平成3年12月に「医療技術短期大学部自己点検評価委員会」が組織され、全学での実施状況にあわせて、その方法を検討し、自己点検・自己評価活動を開始した。平成5年4月、第1部；「医療技術短期大学部の総括的 point 検・評価」、第2部；「研究活動の活性化に向けて」、からなる『自己点検・評価報告書』を刊行し公表した。続いて平成6年に、第Ⅰ部；「教育活動研究活動の継続的 point 検」、第Ⅱ部；「個々の授業の総 point 検」、第Ⅲ部；「授業の評価と改善に向けての具体策」、

からなる『自己点検・評価報告書』を刊行し公表した。

医学部保健学科（平成11年10月設置）では、平成14年1月、新潟大学評価委員会作成の自己評価実施要項に基づき「教育評価自己評価書（平成13年度分）」を作成し、公表した。

3 大学院保健学研究科での実施予定

学年進行が終了した保健学研究科修士課程においては、自己点検評価委員会を設置し、下記に示す評価項目を中心にさらに細目等について検討中である。博士後期課程においては、学年進行終了後1年以内に研究科全体、各分野毎及び個々の教員に関する研究並びに教育内容等について自己点検・評価を行い、その結果を研究科の自己点検評価委員会で審議し、自己評価報告書を作成する。ついで外部の専門家及び有識者らによる外部評価委員会を設け、自己評価報告書と面接に基づいての外部評価を行う。外部評価委員会の評価結果は公表し、指摘された点については、その改善策を自己点検評価委員会にて審議する。なお、評価は大学評価委員会評価項目に準じて以下に掲げる項目を中心に行う。

研究

- ① 研究体制及び研究支援体制
- ② 研究内容及び水準
- ③ 研究の社会的効果
- ④ 研究の質の向上及び改善のためのシステム

教育

- ① 教育の実施体制
- ② 教育内容面での取組
- ③ 教育方法及び成績評価面での取組
- ④ 教育の達成状況
- ⑤ 学習に対する支援
- ⑥ 教育の質の向上及び改善のためのシステム

XI 情報の提供

新潟大学の教員を対象とした「研究者総覧」を3年周期で発行し、また発行しない年は追補版を発行し、文部科学省はじめ全国の国立大学、新潟県内高等教育機関、新潟県庁、市町村教育委員会、県内公立図書館、報道機関等に配付するとともに、データベース化し、新潟大学ホームページに公表している。

掲載事項は、次のとおりである。

1. 氏名 2. 性別 3. 職名 4. 連絡方法 5. 最終出身学校 6. 学位 7. 職歴 8. 受賞歴 9. 専門分野 10. 研究課題 11. 研究業績 12. 社会的活動 13. 所属学会

本学の地域共同研究センターにおいては、同センターに参加している各学部の教員の専門分野及び研究題目についてホームページにおいて公表している。

医学部保健学科においては「新潟大学医学部保健学科ホームページ」において専攻毎に授業科目と担当教員等を公表し、一部教員においては各自の専門分野や研究内容等を公開している。

今後大学院保健学研究科では、各分野及び個々の教員に対する自己点検・評価及び外部評

価について、外部評価報告書の刊行とホームページ上での公開を行う予定である。

XII 教員の資質維持向上の方策

1 FDの実施

(1) 全学における取り組み

年に1回テーマを定めて外部から講師を招き、学長ほか100余名の教職員が一同に集まり、全学FDを実施している。実施にあたっては、大学教育開発研究センターの専任教員及び関係する委員会の委員が役割分担を行い、教育内容の充実・改善のために大学をあげて取り組んでいる。

(2) 医学部保健学科における実施状況

医学科が主催で1泊2日、18時間に及ぶ「新潟医学教育ワークショップ」が、毎年行われている。テーマは「医学教育の進め方：目標から評価まで」であり、毎回保健学科から2名の教員が参加している。その研修内容は、学科へフィードバックされ、教育方法の改善に役立っている。また、看護学専攻では、平成16年9月「看護学専攻が目指すもの」をテーマに、外部講師を招いての講演等第1回のFDを行った。その後、平成18年3月までに5回のワークショップ並びに講演会を行い、実習指導のあり方を中心に検討した。

2 その他の取り組み

(1) 採用・昇任・再任人事

教育研究業績及び臨床・実践経験や授業担当経験などを重視しての選考を実施する。

(2) 自己点検・評価の継続

個々の教員の教育研究活動を継続的に評価する体制を整備する。

(3) 授業評価の実施

大学院生へのアンケート調査の実施とフィードバック体制を確立し、改善の方策を構築する。

(4) 教育方法改善のための事業

看護学専攻が行っているFD研修会を全学科に拡大し研修や講演会の形で定期的を開催する。

(5) 教育研究活動の活性化

教員の教育研究活動の結果に基づく関係予算の配分を考慮する。

資 料 目 次

- 資料 1 新潟県下保健学系大学・大学院の設置状況
- 資料 2 東北六県及び新潟県における保健学系大学
・大学院の設置状況
- 資料 3 地方公共団体等からの要望書
- 資料 4 博士課程設置へのあゆみ
- 資料 5 博士論文作成への標準的スケジュール
- 資料 6 授業科目一覧表
- 資料 7 履修モデル
- 資料 8 大学院生研究室配置図
- 資料 9 既設の学部及び修士課程との関係
- 資料10 保健学研究科博士課程授業時間割表（案）

新潟県下保健学系大学・大学院の設置状況

看護学系

大学名	所在地	学部		大学院		
		学科名	入学定員(人)	研究科・専攻名	入学定員(人)	
					修士課程	博士課程
新潟青陵大学	新潟市	看護福祉心理学部 (看護学科)	80	(未設置)		
新潟県立看護大学	上越市	看護学部 (看護学科)	90	看護学研究科	15	(未設置)
新潟医療福祉大学	新潟市	医療技術学部 (看護学科)	80	(未設置)		
新潟大学	新潟市	保健学科 (看護学専攻)	80	保健学研究科・保健学専攻 (看護学分野)	10	※6(計画)

※印は、保健学研究科保健学専攻入学定員

放射線技術科学系

大学名	所在地	学部		大学院		
		学科名	入学定員(人)	研究科・専攻名	入学定員(人)	
					修士課程	博士課程
新潟大学	新潟市	保健学科 (放射線技術科学専攻)	40	保健学研究科・保健学専攻 (放射線技術科学分野)	5	※6(計画)

※印は、保健学研究科保健学専攻入学定員

検査技術科学系

大学名	所在地	学部		大学院		
		学科名	入学定員(人)	研究科・専攻名	入学定員(人)	
					修士課程	博士課程
新潟大学	新潟市	保健学科 (検査技術科学専攻)	40	保健学研究科・保健学専攻 (検査技術科学分野)	5	※6(計画)

※印は、保健学研究科保健学専攻入学定員

東北六県及び新潟県における保健学系大学・大学院の設置状況

学系	県名	大学名	学科名	研究科名	修士課程	博士課程
看護学系	青森県	弘前大学	医学部保健学科	医学系研究科	○	
		青森県立保健大学	健康科学部看護学科	健康科学研究科	○	○
	岩手県	岩手県立大学	看護学部看護学科	看護学研究科	○	○
	秋田県	秋田大学	医学部保健学科			
		山形大学	医学部看護学科	医学系研究科	○	
	山形県	山形県立保健医療大学	保健医療学部看護学科	保健医療学研究科	○	
		宮城県	東北大学	医学部保健学科		
	宮城大学		看護学部看護学科	看護学研究科	○	
	福島県	福島県立医科大学	看護学部看護学科	看護学研究科	○	
		新潟県	新潟大学	医学部保健学科	保健学研究科	○
新潟医療福祉大学	医療技術学部看護学科					
新潟青陵大学	看護福祉心理学部看護学科					
新潟県立看護大学	看護学部看護学科		看護学研究科	○		
放射線技術科学系	青森県	弘前大学	医学部保健学科	医学系研究科	○	
	岩手県	なし				
	秋田県	なし				
	山形県	なし				
	宮城県	東北大学	医学部保健学科			
	福島県	なし				
	新潟県	新潟大学	医学部保健学科	保健学研究科	○	
検査技術学系	青森県	弘前大学	医学部保健学科	医学系研究科	○	
	岩手県	なし				
	秋田県	なし				
	山形県	なし				
	宮城県	東北大学	医学部保健学科			
	福島県	なし				
	新潟県	新潟大学	医学部保健学科	保健学研究科	○	

平成18年5月10日

国立大学法人

新潟大学長 長谷川 彰 様

新潟県知事 泉田 裕 彦



新潟大学大学院保健学研究科保健学専攻博士課程早期実現に関する要望書

日ごろ、県政の推進につきまして御理解・御協力を頂くとともに、地域に開かれた総合大学として全県に渡り積極的な地域貢献を進めておられることに深く感謝申し上げます。

さて、平成15年において本県が要望いたしました新潟大学大学院保健学研究科保健学専攻修士課程につきまして、早くも平成16年4月に開設いただきありがとうございます。これにより、高度化・多様化する医療技術の進展に対応できる高い知識や技術あるいは国際的視野を備えた人材を育成するための大学院教育が県内で始まったことは、誠に喜ばしいことであります。

しかしながら、医療・保健の分野においては、引き続き更なる専門化・細分化が進んでおり、有能な専門職者を育成する場の必要性がますます高まっているだけでなく、医療・保健の質向上を図るために、貴大学医学部保健学科をはじめ、県内多くの看護職者・医療技術者養成機関への優秀な教員の確保と定着化を図っていくことが急務となっています。ところが、この分野において教育研究者を育成するための大学院博士課程が県内にないことから、人材育成は他県に依存しなければならず、新潟県内での教育研究者を育成する場の形成は喫緊の課題としてその必要性が日々高まってきています。

このような状況にかんがみ、新潟大学大学院保健学研究科保健学専攻におかれまして、新たに博士課程の設置について早期に実現されますよう強く要望いたします。



平成18年5月10日

国立大学法人

新潟大学長 長谷川 彰 様

新潟市長 篠田



新潟大学大学院保健学研究科保健学専攻博士後期課程の早期設立
に関する要望書

晩春の候、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

貴大学におかれましては、地域に開かれた総合大学として、創立以来、各界で活躍する優秀な人材を輩出されるとともに、本市の発展に多大な貢献をいただいておりますことに深く感謝申し上げます。

さて、近年の少子高齢化社会において、疾病構造に大きく影響しているといわれている生活習慣病の予防や小児、女性、高齢者及び家族を対象とした健康支援と健康管理、また、将来的に急速な蔓延の恐れが指摘されている新興・再興感染症の予防などの疾患予防や保健活動の重要性は今後ますます増していくものと思われま。

本市におきましても、生活環境や健康意識の変化の伴い、保健・医療に対する要求は、高度化、かつ多様化し、その充実は必要不可欠となっています。

このような中、本年3月、貴大学が一昨年開設された大学院保健学研究科修士課程から第一期生を輩出されたということをお聞き、大いに期待を寄せるところですが、有能な医療専門職者並びに教育・研究者の育成がさらに必要とされることから、早期に貴大学において、大学院保健学研究科保健学専攻博士後期課程を設立くださいますよう要望いたします。

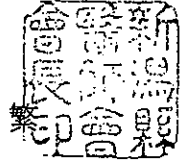
なお、博士課程設立にあたりましては、社会人の再教育について、ぜひともご配慮くださるよう併せてお願い申し上げます。

国立大学法人

新潟大学長 長谷川 彰 殿

新潟県医師会長

佐々木



新潟大学大学院保健学研究科保健学専攻博士後期課程の設置に関する要望書

新潟大学におかれましては、広く地域に開かれた総合大学として県内の他の大学と連携を図りながら高等教育機関としての先駆的役割を果たされると同時に、各分野における地域のリーダーとなる人材育成にご尽力をいただいておりますことは、誠に同慶に堪えません。

さて、我が国は高齢社会がますます進展し人口構造が急激な変化を迎える中で、医療や年金などの社会保障制度は大きな変革を求められ、その中でも医療・保健・福祉の充実と発展は日本の将来を左右する重要なポイントの一つであります。とりわけ、国民全体が望む「健康で安心して暮らせる社会」をつくるためには、医療・保健・福祉の充実と発展は必要不可欠な部分であります。

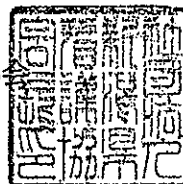
これら実現のためには、医療関係者が一丸となって国民のためとなるシステムづくりを推進するとともに、社会的・教育的養成に応え得る、有能な専門職者並びに教育・研究者を育成することが急務であります。併せて、ますます高度化する医療とともに、地域医療、プライマリ・ケア、健康増進等の生活の場における活動の充実を図ることが極めて重要な課題となりますが、現在の複雑な生活環境の中では、従来にも増して疾病だけを対象とするのではなく、全人的医療を行う立場から疾病の予防・健康の維持・増進を援助する質の高い看護職者並びに医療技術者が求められております。

つきましては、地域の医療内容及び医療教育の充実と人材確保を図り、県内の教育研究者育成のレベルアップを図るためにも、貴学医学部保健学科におきまして、「大学院保健学研究科保健学専攻博士後期課程」を早期に設置されることを強く要望いたします。

平成18年4月21日

国立大学法人 新潟大学
学長 長谷川 彰 様

社団法人 新潟県看護協会
会長 長部 夕



新潟大学大学院保健学研究科博士後期課程の設置に関する要望書

新潟大学が地方に開かれた総合大学として、高等教育機関の先駆的役割を果たしておられることは、誠にご同慶に堪えない次第であります。

さて、このところ急速に進む少子・高齢社会にあつて、生活習慣病の広がりや深刻化する子どもの心身の問題、社会問題化している医療事故、人びとの価値観の多様化と健康意識の変化、生命の尊厳をめぐる倫理問題など、保健・医療・福祉をめぐるこれらの問題に対して、看護職の担う役割は年々その重要性を増してきております。

医療は研究関係者の活躍により急速に進歩発展しているところでありますが、これに対応して看護分野においても高度専門的な実践能力が期待され、それとともに国際的な視野に立った教育研究能力も強く求められております。

これまで本県では、看護学分野の博士課程での教育と研究を望む人材は他県の大学院への進学を余儀なくされています。修了後もそのままその地域にとどまることが多く、新潟県内の保健医療並びに看護に貢献し、看護学のさらなる構築に向けて開拓者となる卓越した人材の確保に支障を来していることは、当協会としても憂慮するところであります。

このような状況のもとで本県においては、高度な専門知識及び技術とともに、生命倫理並びに医療倫理に裏付けられ、独創的で自立した研究能力をもった看護者（保健師・助産師・看護師）、放射線技師、検査技師の育成、併せて教育研究者の育成が急務となっております。

平成16年4月には待望の大学院保健学研究科修士課程がスタートしました。この上は修士課程の学生が学修をさらに深化発展させるための道として、平成19年度には博士課程が設置されることを強く要望致します。

また、博士課程設置に当たりましては、ひろく社会人の入学についてもご配慮いただけますようお願い申し上げます。

平成18年5月5日

国立大学法人 新潟大学
学 長 長 谷 川 彰 様

社団法人 新潟県放射線技師会
会 長 伊 藤



新潟大学大学院保健学研究科保健学専攻博士後期課程の早期実現を望む

貴学におかれましては、地域に開かれた総合的な高等教育機関として、日頃その責務を着実に果たされていることは、誠に同慶に堪えない次第であります。

さて、近年の少子高齢化社会の到来は、人々の生活背景や疾病構造に大きな変化をもたらし、医療・保健・福祉の充実が必要不可欠の時代となっております。医療・保健分野においても、めざましい高度先進医療が進められるとともに、地域では在宅医療・介護等の充実が図られつつあります。

放射線医療におきましても、コンピュータを搭載した高性能な形態診断機器、機能診断機器を駆使し、より良い医療情報の提供をめざすとともに、情報通信や新しい機器の開発に努めているところですが、高度化する放射線技術、医用物理及び医用工学理論を展開し、保健医療において国民の健康と福祉に役立つ研究を行う人材の育成が必要とされています。

このような状況の中で、貴学大学院保健学研究科（修士課程）におかれましては、放射線技術科学を高度医療機器の技術開発と新たな診断技術を通して人々のQOLの向上に貢献する保健学の一分野として捉え、独自の先端的専門分野を開拓すると共に、高度の知識と技能を有する放射線医療技術者の育成を行っているところですが、更に放射線医療技術者の視点に立った先端的な研究を遂行できる人材の育成と保健医療の実践の場において指導的・教育的立場をとれる高度専門医療技術者の育成を目指す大学院保健学研究科博士後期課程の設置が強く社会から求められております。

前述のような医療及び社会的要請に応える大学院保健学研究科放射線技術科分野を専攻する博士後期課程の教育機関は、新潟県及び東北六県において未設置という地域性から、とくに貴学においてその必要性が高いと考えております。地域の医療内容及び医療教育の充実と人材確保のためにも、既設の修士課程を基盤として更に高度な内容の教育と研究を追及する場として大学院博士後期課程の設置が望まれます。

つきましては、社団法人新潟県放射線技師会の総意として、貴職のご理解を賜り、貴学に修士課程の学年進行に合わせて最初の修了生が引続き博士課程に進学できるよう、博士課程の平成19年4月の設置を切に要望いたす次第であります。

なお、博士後期課程設置にあたりましては、社会人特別選抜修士課程修了者が引続き、職を辞さず有職の状態で学べる社会人特別選抜制度の整備に関しても格段のご配慮を併せてお願い申し上げます。



新臨技発第 132 号

平成 18 年 4 月 26 日

新潟大学長 長谷川 彰 様

(社) 新潟県臨床衛生検査技師会

会長 松田 和博



新潟大学大学院保健学研究科保健学専攻博士後期課程の早期設置に関する要望書

謹啓 陽春の候 貴職にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

平素は臨床衛生検査技師会事業について、格別のご指導とご協力をいただき、深謝申し上げます。

さて、近年の少子・高齢化社会の到来は、人々の生活背景や疾病構造に大きな変化をもたらし、医療、保健、福祉の充実が必要不可欠な時代となっております。医療、保健の分野についてみますと、遺伝子レベルの診断や臓器移植、再生医療及び遺伝子治療などの先端技術を駆使した高度先進医療が進められるとともに、地域では生活習慣病対策等健康増進事業や在宅医療・介護の充実が図られつつあります。

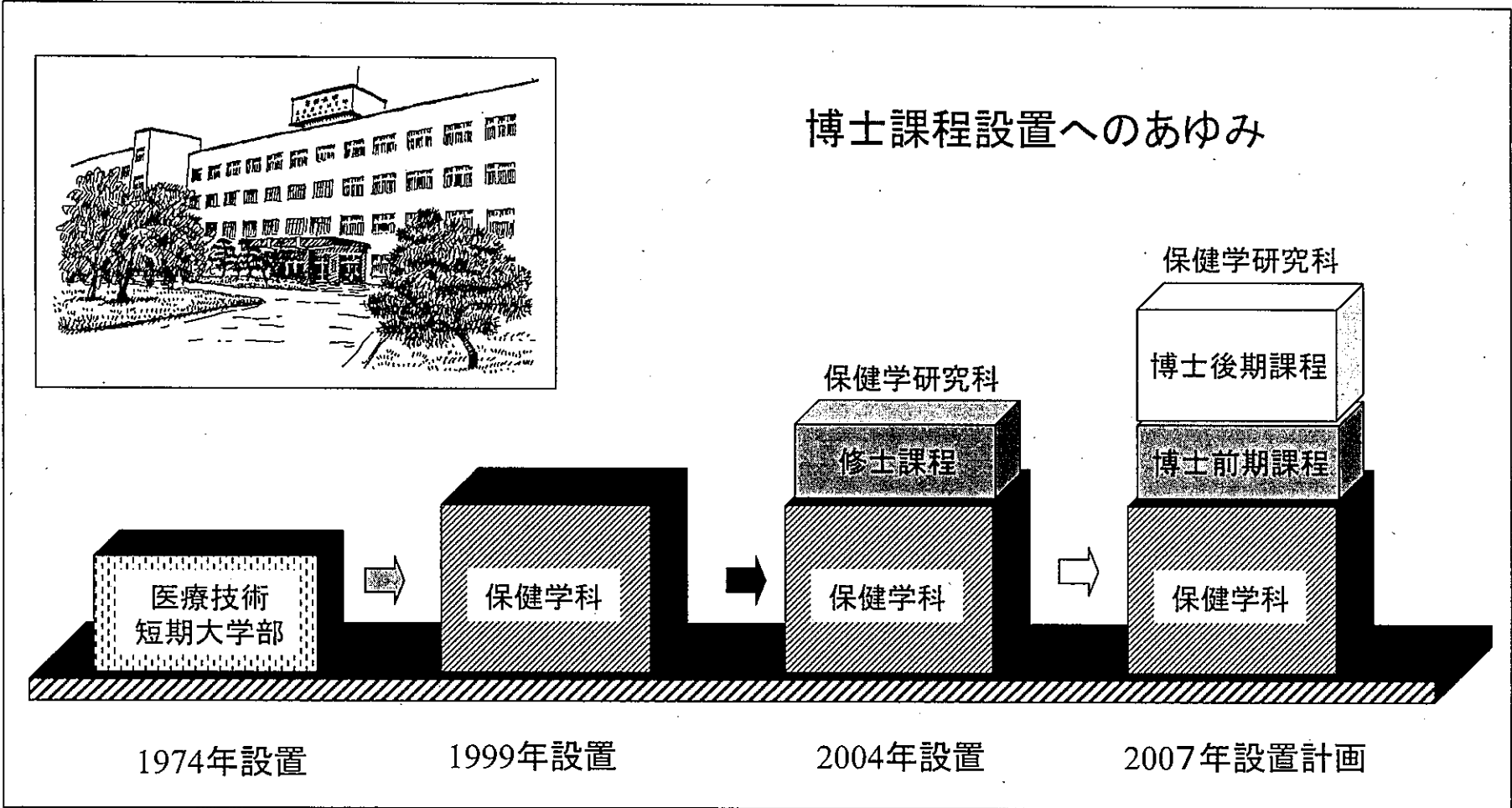
臨床検査技術の分野におきましても、このような医学・医療の進歩発展に対応し、かつ寄与していくためには、高度の専門職者の育成が急務と考えます。

また、遺伝と生活様式に起因する生活習慣病の急増、老化が関係する脳血管障害、循環器疾患、悪性腫瘍、老人性痴呆などの有病率は増加の一途を辿っています。このような疾患群の的確な診断方法を開発し、健康状態を客観的に評価する方法を確立することにより、臨床検査分野は地域保健医療に直接・間接に貢献できるものと考えます。

このような状況の中で、貴学保健学科におかれましては、臨床検査技師の養成と専攻修士課程が設置されていますが、さらにより高度の知識と技術、それに豊かな人間性を持って実践でき、国際的にも活躍できる高度職業人や教育・研究者の養成が必要と考えております。

ついては、当会といたしまして前述のように高い質の職業人、教育者、研究者養成に是非とも応えていただきたく、保健学に関する専攻博士後期課程設置の早期実現を切に要望する次第であります。

敬 具



博士論文作成への標準的スケジュール

時期区分		学 生	指導教員
1 年 次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・進路志向の選択 ・研究領域・履修科目の決定 ・先行研究分析・参考文献収集 ・研究課題の立案と決定 ・研究主題決定（～1年次後期） ・コースワーク <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 共通コア科目 研究支持科目 専門科目(特講) </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・志向の確認, 要望の聴取 (研究指導委員会*) ・指導体制の確立 (研究指導教員・補佐教員決定) ・科目履修指導 ・研究課題の設定指導 ・研究方法・研究計画の指導 ・研究主題決定への指導
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・研究計画書の提出 ・委員会承認をうけ研究開始 ・コースワーク <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 専門科目(特講) 専門科目(特講演習) </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・研究計画指導 ・研究計画倫理性審査 (研究科倫理委員会) ・研究計画論理性審査 (研究指導委員会) ・学生の意見・要望の聴取
2 年 次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・第一次研究成果中間報告 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究の進捗状況の確認・指導
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・第二次研究成果中間報告 ・研究経過報告書の作成と提出 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究の進捗状況の確認・指導
3 年 次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・博士論文の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究の完成度確認 ・論文作成の指導
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・博士論文の提出 ・博士論文発表(公聴会) 	<ul style="list-style-type: none"> ・論文審査委員会の設置 ・学位論文予備審査 ・最終審査と最終試験 ・研究科委員会へ審査報告 ・学位授与の決定

※研究指導委員会の構成：当該分野の特定研究担当教員及び研究指導教員が依頼する教員

授業科目一覧表

授業区分	授業科目名	必修・選択
共通コア科目	生命と生活の健康科学	必修
研究支持科目		
看護学分野	看護学研究法 ケア技術開発法	1科目 選択必修
放射線・検査技術科学分野	保健学情報解析法 研究倫理	1科目 選択必修
専門科目		
看護学分野	小児・女性看護学特講 小児・女性看護学特講演習 地域・国際看護学特講 地域・国際看護学特講演習 保健学特定研究(看護学)	2科目選択 必修
放射線技術科学分野	医用物理学特講 医用物理学特講演習 生体機能情報解析学特講 生体機能情報解析学特講演習 臨床画像診断学特講 臨床画像診断学特講演習 医用画像情報学特講 医用画像情報学特講演習 保健学特定研究(放射線技術科学)	2科目選択 必修
検査技術科学分野	ゲノム・微生物病態検査学特講 ゲノム・微生物病態検査学特講演習 生体システム機能検査学特講 生体システム機能検査学特講演習 病態病理検査科学特講 病態病理検査科学特講演習 免疫・血液病態検査学特講 免疫・血液病態検査学特講演習 保健学特定研究(検査技術科学)	2科目選択 必修

履修例の概要

	分 野	履修例-1	履修例-2	履修例-3	履修例-4	履修例-5	履修例-6
		看護学	看護学	放射線技術科学	放射線技術科学	検査技術科学	検査技術科学
		対象学生の志向	高度専門職者	教育研究者	高度専門職者	教育研究者	教育研究者
共通コア科目	生命と生活の健康科学	○	○	○	○	○	○
研究支持科目	ケア技術開発法	○					
	看護学研究法		○				
	保健学情報解析法			○			○
	研究倫理				○	○	
専 門 科 目	小児・女性看護学特講	○					
	小児・女性看護学特講演習	○					
	地域・国際看護学特講		○				
	地域・国際看護学特講演習		○				
	生体機能情報解析学特講			○			
	生体機能情報解析学特講演習			○			
	医用画像情報学特講				○		
	医用画像情報学特講演習				○		
	免疫・血液病態検査科学特講					○	
	免疫・血液病態検査科学特講演習					○	
	病態病理検査科学特講						○
	病態病理検査科学特講演習						○
保健学特定研究	○	○	○	○	○	○	

履修例－１（看護学分野）

- 1 対象となる学生：性と生殖に関する女性の健康支援のための技術開発に関心を持ち、高度医療専門職者を志向する学生
- 2 博士論文のテーマ
高度生殖補助医療を選択した女性とその家族の関係性に着目した看護援助モデルの開発に関する研究
- 3 履修科目

区分	授業科目	単位	計
必修科目	生命と生活の健康科学（１年次前期）	2	6
	小児・女性看護学特講（１年次後期）	2	
	小児・女性看護学特講演習（１年次後期）	2	
選択科目	ケア技術開発法（１年次前期）	2	2
特定研究	保健学特定研究（看護学）（１～３年次）	4	4
計			12

4 履修の概要

ここに示す博士論文テーマは、臨床看護者の立場から、生殖補助医療をうける女性と家族の相互関係性に着目し、質的研究によってジェンダー視点をもった看護援助モデルを開発するものである。

論文作成にあたっては、最初に「生命と生活の健康科学」を履修し、保健と予防方策に関わる他分野の最新の知見を通して本研究に関わる学際的な視点を修得する。また、選択科目で「ケア技術開発法」を履修し、不妊看護におけるケア技術の開発や検証の視点を学び、臨床研究における倫理的態度を獲得する。さらに「小児・女性看護学特講」を通して研究課題と研究法を明確化し、「小児・女性看護学特講演習」によって批判的思考を習得するとともに、演習を通じて参加観察法やインタビュー技法に習熟する。

「保健学特定研究（看護学）」では、研究指導教員及び研究指導補佐教員の指導のもとで、不妊治療の女性と家族の援助モデルを開発し、臨床への適用を追究する。

これらの科目履修と併行して、標記課題に関する先行研究や文献等を収集し、１年次後期に研究計画を立案する。２年次には研究計画を倫理委員会並びに研究指導委員会等の承認を得て、研究を開始し、定期的に研究成果の中間発表と報告を行う。３年次には、これまでの研究成果をまとめ、博士論文を完成させていく。

なお、質的調査の実地訓練や研究対象者の募集、研究の実施は、新潟大学看護開発センターや同大学医歯学総合病院、市の男女共同参画推進センター内「女性の心と身体の相談室」をフィールドとし、指導担当教員のコンサルテーションのもとで行う。

こうした教育と研究を通じて、＜性と生殖に関する女性の健康支援＞を専門領域とし、自立的な研究能力をもつ高度医療専門職者を育成する。修了後の学生は医療機関に所属し、生殖補助医療分野での保健学博士として不妊看護の実践及び研究を担当することによりチーム医療の一翼を担うことができる。

履修例－2（看護学分野）

- 1 対象となる学生：健康教育における生活習慣の測定ツールの研究に関心を持ち、教育研究者を志向する学生
- 2 博士論文テーマ
循環器系疾患の危険因子に影響を及ぼす生活習慣の尺度開発に関する研究

3 履修科目

区分	授業科目	単位	計
必修科目	生命と生活の健康科学（1年次前期）	2	6
	地域・国際看護学特講（1年次後期）	2	
	地域・国際看護学特講演習（1年次後期）	2	
選択科目	看護学研究法（1年次前期）	2	2
特定研究	保健学特定研究（看護学）（1～3年次）	4	4
計			12

4 履修の概要

ここに示す博士論文テーマは、生活習慣病の発生予防における健康支援方略の開発と検証法の確立に向けて、生活習慣の測定ツールの開発を目指したものである。

本履修例では、ライフスタイルと循環器疾患（特に虚血性心疾患）との関係に焦点をあて、その疾患の発生に関連する生活習慣尺度の開発について、疫学的・統計学的に探究する。さらに、生活習慣の改善が疾患の発生防止にどの程度結びつくか、そのエビデンスについて研究する。加えて、血液生化学検査所見の変化や危険因子の血液マーカーといわれる高感度CRPやSAAへの影響について前方視的研究を行い、生活習慣病を予防していく上で最も有効な介入方略について研究する。

博士論文作成に関連して、1年次前期には「生命と生活の健康科学」を履修し、保健と健康支援に関する他領域の最新知見や研究法を通して、本研究に関わる学際的な視点を修得する。さらに「看護学研究法」を履修し、健康事象を保健及び看護の側面から多角的に把握し、解析するための研究手法並びに倫理的課題について探求する。そして論文作成に必要な「地域・国際看護学特講」では、地域の健康支援に関する介入理論や研究法について修得する。さらに「地域・国際看護学特講演習」では、地球規模の健康支援の研究技法とともに、国際的な研究発表の技術や学術論文の投稿等について具体的な知識及び技術を学ぶ。「保健学特定研究（看護学）」の履修では、研究指導教員及び研究指導補佐教員の助言や指導のもとで、博士論文のテーマに基づいて生活習慣の測定尺度とその評価法を開発し、健康教育への適用について追求する。

これらのコースワークと併行して標記課題に関する先行研究や文献を収集し、1年次後期から研究計画書作成にとりかかる。研究計画が倫理委員会並びに研究指導委員会で承認され次第研究を開始し、以後定期的に研究成果の中間発表と報告を行う。3年次には、これまでの研究成果をまとめ、博士論文を完成させていく。

このような教育と研究を通して、循環器系疾患をはじめとする生活習慣病の危険因子に影響を及ぼす生活習慣の尺度開発に焦点をあて、国際的な研究活動ができる教育研究者を育成する。

履修例－3（放射線技術科学分野）

1 対象となる学生：MRIを用いて各種関節の軟骨状態の評価と関節の接触機構の解明を行うことに興味があり、高度医療専門職者を志向する学生

2 博士論文のテーマ
MRIを用いた関節軟骨の構造及び関節機能の解明

3 履修科目

区分	授業科目	単位	計
必修科目	生命と生活の健康科学（1年次前期）	2	6
	生体機能情報解析学特講（1年次前期）	2	
	生体機能情報解析学特講演習（1年次後期）	2	
選択科目	保健学情報解析法（1年次前期）	2	2
特定研究	保健学特定研究（放射線技術科学）（1～3年次）	4	4
計			12

4 履修の概要

高齢者の増加に伴い軟骨が変性する変形性関節症が大きな問題となっている。また、最近の再生医学の発展に伴って再生関節軟骨の適用の試みが行われている。しかしながら、関節軟骨の変性状態等を生体内で診断する手法は確立されていない。更には、関節の運動及び接触機構については未だ不明な点が多い。これまで関節軟骨の生体内における臨床的評価法としては、関節鏡を併用したプロービング法が一般的であるが、客観的評価法とは言い難い。一方、関節の接触領域分布測定や運動解析は関節に荷重が作用している状態での評価が必要である。

本履修例では、高度医療専門職者を志向する学生を対象に、MRIを用いたヒト関節軟骨の構造及び関節機能の解明を目的として、関節軟骨の水分量や水分移動を測定することによって、軟骨の変性状態を定量化することを試みる。更に、荷重下における足関節及び膝関節等の各屈曲状態での軟骨接触状態をMRIにより求め、生体内における関節の接触領域分布や接触圧力分布等を明らかにすると共に、関節運動について三次元的に明らかにする。

学位論文作成に関連して、1年次では、「生命と生活の健康科学」を履修し、研究を遂行する上で基礎となる生命倫理や健康支援に関する多領域分野の学際的知識について学ぶ。また、「保健学情報解析法」を履修し、医療統計及び疫学調査法等を修得する。更には、「生体機能情報解析学特講」及び「生体機能情報解析学特講演習」を履修することで、学位論文テーマに関連した内容について深く学ぶ。これらの授業履修と併行して、標記課題に関する先行研究や文献等を収集し、1年次前期に研究計画を立案する。研究計画が研究科委員会等で承認され次第研究を開始し、以降定期的に研究成果の中間発表と報告を行う。3年次には、これまでの研究成果をまとめ、学位論文を完成させていく。

本学位論文の内容は、これからの生体医工学や臨床画像診断学において有用な知見を数多く提示できることから、放射線技術科学を基盤とした保健学において貢献できる場所が大きい。このような教育と研究を通して、深い生命倫理観と豊かな感性を有し、高齢者のQOLを向上させることを念頭において創造的な臨床研究のできる資質を備えた高度医療専門職者を養成することができる。

履修例－４（放射線技術科学分野）

1 対象となる学生：情報理論に基づく医用放射線の画質特性解析並びに評価法の開発を行うことに興味があり，企業における研究者を志向する学生

2 博士論文のテーマ
医用画像の画質特性とその応用に関する情報理論的研究

3 履修科目

区分	授業科目	単位	計
必修科目	生命と生活の健康科学（１年次前期）	2	6
	医用画像情報学特講（１年次前期）	2	
	医用画像情報学特講演習（１年次後期）	2	
選択科目	研究倫理（１年次前期）	2	2
特定研究	保健学特定研究（放射線技術科学）（１～３年次）	4	4
計			12

4 履修の概要

切開することなく人体の内部構造を知ることのできる X 線画像は医用画像の中で最も重要な位置を占めている。したがって，X 線像の画質向上は医学における最大関心事である。しかしながら，X 線像の画質と患者被曝線量は相反する関係にある。医療においては，この矛盾する関係の中からある許容範囲を見出し，画像を作成しなければならない。この問題を解決するためには，X 線像の画質に関する多方面の解析や評価が必要である。

本履修例では，研究者を志向する学生を対象に，MRI や CT などの撮像装置からデータを取得し，その画質特性を基盤とした定量的かつ正確な画像診断を行うための診断支援システムの開発を博士研究テーマとし，情報理論における種々の手法を医療用画像領域に導入する。また，臨床画像を直接対象としているため，画像データを取得する際の倫理上の問題を生じる場合の留意事項及び手続き等を深く学ぶ。

博士論文作成に関連して，１年次では，「生命と生活の健康科学」を履修し，研究を遂行するうえで基礎となる保健統計学や医療情報システムに関する最新手法及び学際的知識について学ぶ。また，「研究倫理」を履修し，ヘルシンキ宣言及び臨床研究に関する倫理指針に基づいて科学的合理性及び倫理的妥当性について学ぶ。更には，「医用画像情報学特講」及び「医用画像情報学特講演習」を履修することで，学位論文テーマに関連した内容について深く学ぶ。これらの授業履修と併行して，標記課題に関する先行研究や文献等を収集し，１年次前期に研究計画を立案する。研究計画が倫理委員会並びに研究指導委員会等で承認され次第研究を開始し，以降定期的に研究成果の中間発表と報告を行う。３年次には，これまでの研究成果をまとめ，学位論文を完成させていく。

このような教育研究を通じ，「高度医療機器や次世代の医療用診断支援システムの開発」を専門領域とし，高度な資質を備えた医療技術研究者を育成する。学位を取得した学生は，医療用機器・システムの開発製造企業に所属し，先端医療機器の開発設計及び遠隔医療システムの開発に携わることによって，保健学に寄与する医療機器の更なる発展に貢献できる。

履修例－5（検査技術科学分野）

- 1 対象となる学生：腫瘍に対する免疫反応を応用した腫瘍増殖阻止に興味があり，腫瘍免疫に関連した新しい検査技術の開発に貢献する教育研究者を志向する学生
- 2 博士論文のテーマ
腫瘍免疫反応の解明と効果的な抗腫瘍免疫療法の確立に応用できる新しい検査技術の開発

3 履修科目

区分	授業科目	単位	計
必修科目	生命と生活の健康科学（1年次前期）	2	6
	免疫・血液病態検査科学特講（1年次前期）	2	
	免疫・血液病態検査科学特講演習（1年次後期）	2	
選択科目	研究倫理（1年次前期）	2	2
特定研究	保健学特定研究（検査技術科学）（1～3年次）	4	4
計			12

4 履修の概要

腫瘍は担癌生体にとって正常では存在しない異物であり，それを排除しようとする免疫反応が誘導されるが，腫瘍細胞は生体の免疫監視機構からエスケープして増殖する。腫瘍の発生を予防したり，腫瘍の進展を防止するためには，腫瘍細胞に対する免疫反応を高めることが効果的であることは明らかである。腫瘍免疫反応を十分に解明し，効果的な抗腫瘍免疫療法を確立するためには，腫瘍に対する免疫反応を多角的かつ正確に評価でき，かつ免疫学的治療による抗腫瘍免疫反応の増強効果を効率的に評価する新しい検査技術の開発が不可欠である。本履修例では，教育研究者を志向する学生に対し，腫瘍免疫反応の解明と効果的な抗腫瘍免疫療法の確立に応用できる新しい検査技術の開発を研究テーマとした教育プログラムを提示する。

博士論文作成に関連して，1年次前期には，「生命と生活の健康科学」を履修することにより，予防医学と健康支援を基盤とする保健学専攻としての共通理念を学ぶ。同時に，「研究倫理」を履修することにより，教育研究者として活躍するために不可欠な遺伝子，細胞，生命等を対象とする研究に関連する倫理学について学ぶ。1年次前後期に，「免疫・血液病態検査科学特講」および「免疫・血液病態検査科学特講演習」を履修することにより，腫瘍抗原の提示に関する免疫学，造血器悪性腫瘍をはじめとする腫瘍の発生と進展，および腫瘍免疫療法に関する最新の知見を修得するとともに，主体的に研究領域の情報を収集する能力を身につける。また，1年次に「保健学特定研究（検査技術科学）」として取り組む研究計画を立案し，研究計画が倫理委員会並びに研究指導委員会で承認され次第，リサーチワークを開始し，1年次から3年次に腫瘍免疫反応の解明と抗腫瘍免疫療法の確立に必要な検査技術の開発についての研究を行う。「保健学特定研究」を行う間は，学内で定期的に研究成果の中間発表と報告を行うとともに，学外においては学会発表，論文投稿を行う。3年次には，研究成果を総合的にまとめ，博士論文を完成させる。

以上の体系的なコースワークとリサーチワークを通して，腫瘍免疫，腫瘍免疫療法に精通し，腫瘍免疫と関連した検査技術科学の開発に貢献できる教育研究者を育成する。このような人材は，保健学の中で検査技術科学，細胞処理領域，血液免疫学領域，再生医療領域の研究所，教育機関で教育研究者として活躍することが期待される。

履修例－6（検査技術科学分野）

- 1 対象となる学生：消化管疾患の病因と病態を形態的及び機能的に解析し、その成果を予防医学に応用することに興味のある高度医療専門職者を志向する学生
- 2 博士論文テーマ
消化管悪性腫瘍の早期診断及び進展予防のための病理学的検査技術の総合的確立

3 履修科目

区分	授業科目	単位	計
必修科目	生命と生活の健康科学（1年次前期）	2	6
	病態病理検査科学特講（1年次前期）	2	
	病態病理検査科学特講演習（1年次後期）	2	
選択科目	保健学情報解析法（1年次前期）	2	2
特定研究	保健学特定研究（検査技術科学）（1～3年次）	4	4
計			12

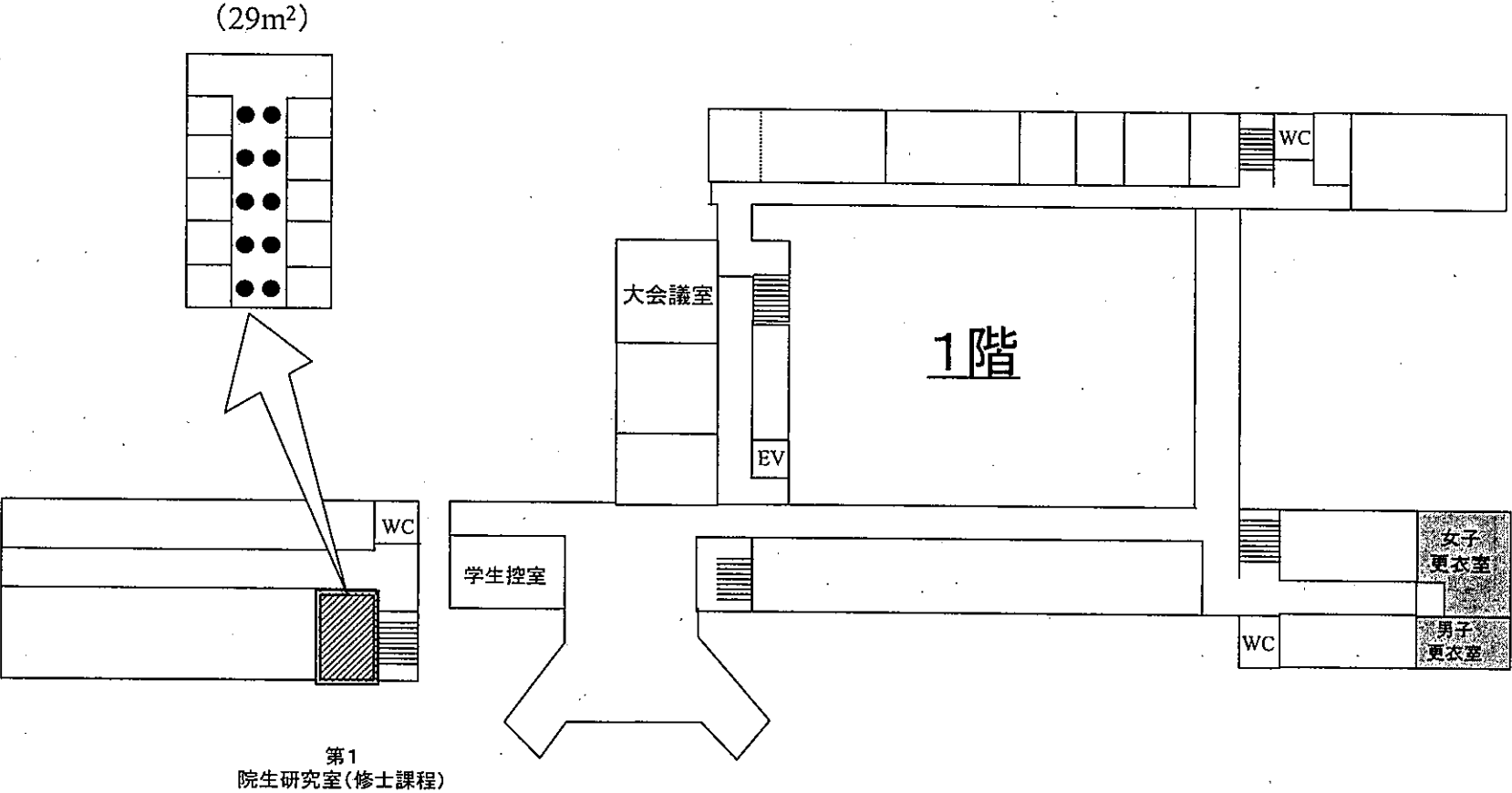
4 履修の概要

消化管悪性腫瘍は本邦で最も罹患率・死亡率の高い悪性疾患であり、予防医学の視点からも早期診断と進展予防に貢献する高度医療専門職者の役割は大きい。本履修例では、共通科目として「生命と生活の健康科学」を履修することにより、予防医学と健康支援を理念とする保健学専攻としての共通概念を学ぶ。同時に、「保健学情報解析法」を履修し、保健学の理念を認識し、研究の方法論を修得する。「病態病理検査科学特講」および「病態病理検査科学特講演習」において、消化管癌の発生、増殖、進展、転移の特性と生物学的悪性度についての病理学的解析を行い、早期診断と進展予防に関する理論と実際について探究する。さらに、各進展段階における消化管細胞の形態的・機能的変化並びに遺伝子異常を明らかにするための病態病理検査法を履修した上で、人体消化管材料を用いて、消化管癌の多様な形態的及び機能的変化とそれに伴う遺伝子的変化について病理組織検査学、免疫組織化学、ゲノム遺伝子分析法等を用いた解析を行う。「保健学特定研究（検査技術科学）」において、消化管癌に関する特異的かつ高感度な病理組織的な情報を探究し、早期診断、進展予防のための新しい知見と技術を修得応用する。

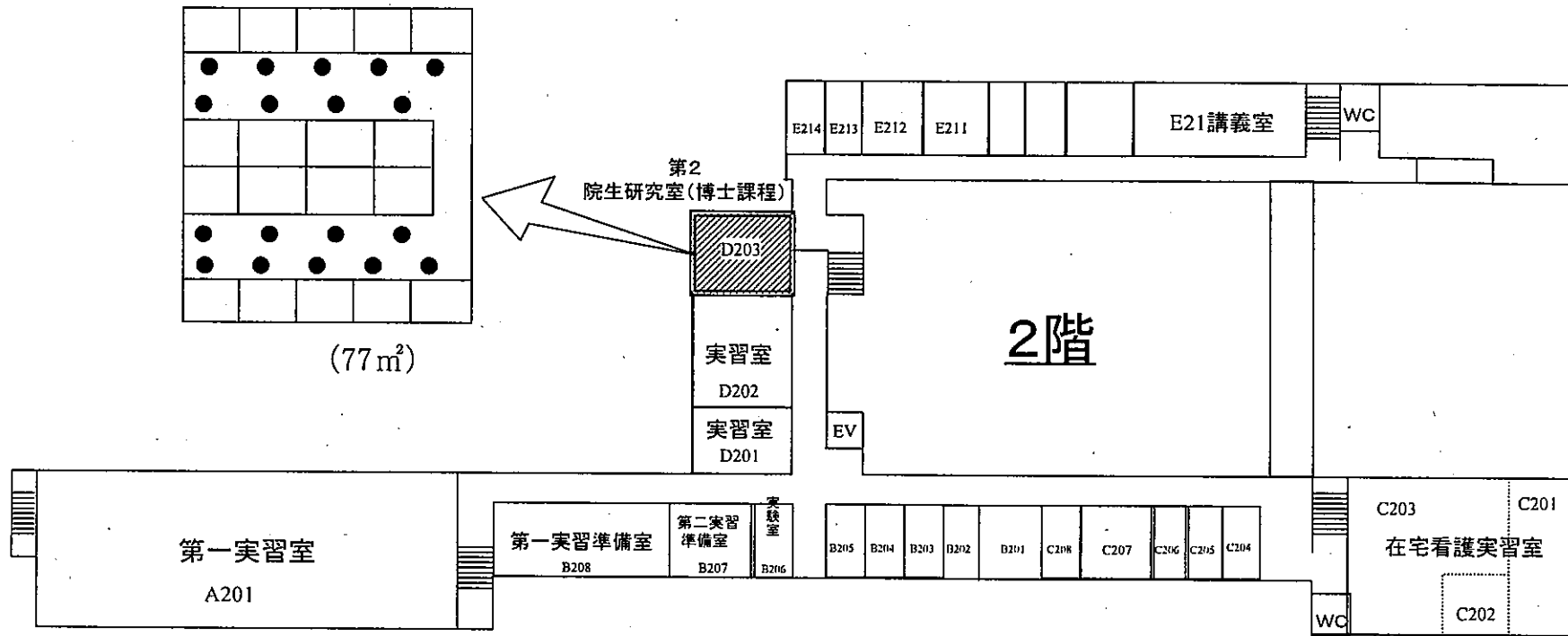
博士論文作成に関連し、これらの科目履修と併行して、消化管腫瘍の生物学的悪性度の病理学的解析に関する、先行研究や文献を収集し、1年次前期に研究計画を立案する。研究計画が倫理委員会並びに研究指導委員会等で承認され次第研究を開始し、以後、1年次から3年次にわたり「保健学特定研究」を継続して行う。また、定期的に研究成果の中間発表と報告を行い、3年次後期には、これまでの研究成果をまとめ、博士論文を完成させる。

本研究を通して、病理学及び病理組織細胞学検査とそれに関連する卓越した専門知識と高度な技術を有する高度専門医療職者を育成する。このような人材は、高度医療機関や、検査、健診センターで指導的役割をはたす専門医療職者として活躍することが期待される。

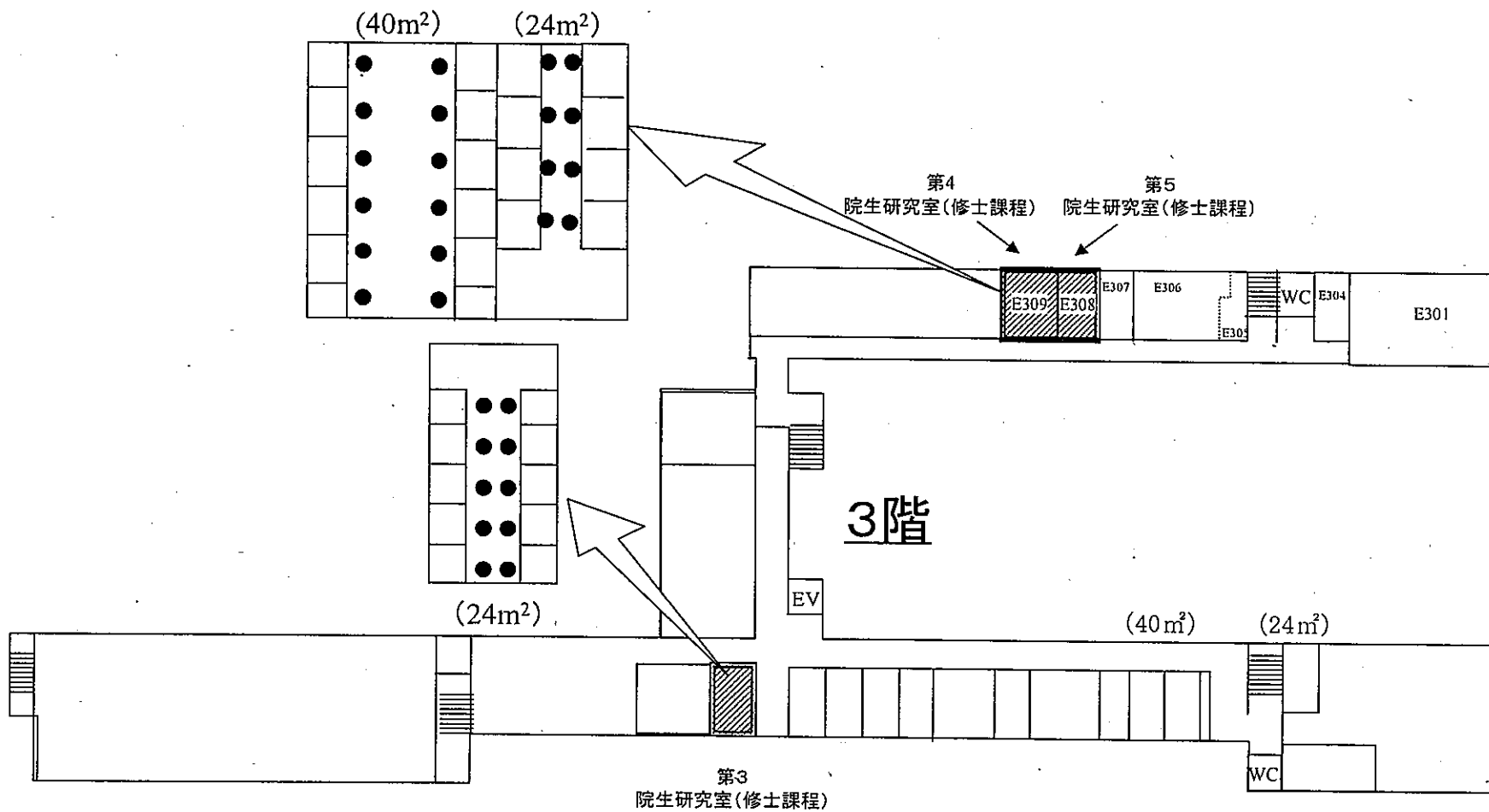
大学院生研究室配置図(1)



大学院生研究室配置図(2)



大学院生研究室配置図(3)



既設の学部及び修士課程との関係

博士後期課程	博士前期課程（修士課程）	医学部保健学科
共通コア科目 研究支持科目 専門科目	研究科共通科目 分野共通科目	専門基礎科目
看護学分野		
小児・女性看護学特講・特講演習	小児看護学特論・演習・実習 母性看護学特論・演習・実習 基礎看護学特論・演習・実習	小児看護学 母性看護学 基礎看護学
地域・国際看護学特講・特講演習	地域看護学特論・演習・実習 国際看護学特論・演習・実習 成人看護学特論・演習・実習	地域保健・看護学 成人看護学
放射線技術科学分野		
医用物理学特講・特講演習	医用放射線機器科学特論・演習 放射線物質科学特論・演習 放射線治療学特論・演習	放射線画像機器学 放射線計測物理学 放射線治療技術学
生体機能情報解析学特講・特講演習	生体構造機能解析工学特論・演習 放射線薬品化学・管理学特論・演習	放射線基礎工学 放射線保健管理学
臨床画像診断学特講・特講演習	臨床画像診断学特論・演習 核医学情報学特論・演習	臨床画像医科学 核医学検査技術学
医用画像情報学特講・特講演習	医用画像情報学特論・演習	放射線画像技術学
検査技術科学分野		
ゲノム・微生物病態検査科学特講・特講演習	ゲノム検査分子生物学特論・実習 病原微生物解析学特論・実習	生物化学 感染病態検査学
生体システム機能検査科学特講・特講演習	生体情報解析学特論・実習 病態生理機能学特論・実習	生体情報工学, 代謝病態検査学 生体情報解析学
病態病理検査科学特講・特講演習	病態病理検査学特論・実習	人体構造機能学, 病理病態検査学
免疫・血液病態検査科学特講・特講演習	血液・腫瘍検査学特論・実習 免疫病態検査学特論・実習	病態解析学・血液検査学 感染病態検査学, 代謝病態検査学
保健学特定研究	各分野特別研究	卒業研究

保健学研究科博士課程（看護学分野）授業時間割表（案）

曜日	学期	I限	II限	III限	IV限	V限	VI限	VII限
月	前期	a						
		b						
	後期	a	小児・女性看護学特講（渡邊 佐山 定方 渡邊）				小児・女性看護学特講（渡邊 佐山 定方 渡邊）	
		b	小児・女性看護学特講演習（渡邊 佐山 定方 渡邊）				小児・女性看護学特講演習（渡邊 佐山 定方 渡邊）	
火	前期	a	生命と生活の健康科学 （佐山 村松 宮坂 関 佐井 寺尾 高橋（益））				生命と生活の健康科学 （佐山 村松 宮坂 関 佐井 寺尾 高橋（益））	
		b						
	後期	a	地域・国際看護学特講（西山 丹野）				地域・国際看護学特講（西山 丹野）	
		b	地域・国際看護学特講演習（西山 丹野）				地域・国際看護学特講演習（西山 丹野）	
水	前期	a						
		b						
	後期	a						
		b						
木	前期	a	保健学情報解析法 （関）	ケア技術開発法 （小坂橋 定方）			※保健学情報解析法 （関）	※ケア技術開発法 （小坂橋 定方）
		b						
	後期	a						
		b						
金	前期	a	研究倫理 （宮坂）	看護学研究法 （高木 茂木）			※研究倫理 （宮坂）	※看護学研究法 （高木 茂木）
		b						
	後期	a						
		b						

- 備考
1. 特定研究は1年次～3年次、その他の授業科目は1年次に実施。
 2. 特定研究は、各研究指導教員の指示により適宜設定。
 3. ※印の授業は、院生の希望等により「集中講義」開講に変更予定。
 4. 網掛は、大学院設置基準第14条の定めによる時間帯。

保健学研究科博士課程（放射線技術科学分野）授業時間割表（案）

曜日	学期	I限	II限	III限	IV限	V限	VI限	VII限
月	前期						臨床画像診断学特講 (木村 栢森)	
	後期							
火	前期	生命と生活の健康科学 (佐山 村松 宮坂 関 佐井 寺尾 高橋(益))	医用画像情報学特講 (佐井 関谷)				生命と生活の健康科学 (佐山 村松 宮坂 関 佐井 寺尾 高橋(益))	医用画像情報学特講 (佐井 関谷)
	後期		医用画像情報学特講演習 (佐井 関谷)				医用画像情報学特講演習 (佐井 関谷)	
水	前期	生体機能情報解析学特講 (坂本 高橋(俊) 大久 保)					医用物理学特講 (和田 川瀬 日向 齋 藤)	生体機能情報解析学特講 (坂本 高橋(俊) 大久 保)
	後期	生体機能情報解析学特講演習 (坂本 高橋(俊) 大久 保)					医用物理学特講演習 (和田 川瀬 日向 齋 藤)	生体機能情報解析学特講演習 (坂本 高橋(俊) 大久 保)
木	前期	保健学情報解析法 (関)	ケア技術開発法 (小坂橋 定方)	臨床画像診断学特講 (木村 栢森)			※保健学情報解析法 (関)	※ケア技術開発法 (小坂橋 定方)
	後期			臨床画像診断学特講演習 (木村 栢森)			臨床画像診断学特講演習 (木村 栢森)	
金	前期	研究倫理 (宮坂)	看護学研究法 (高木 戈木)	医用物理学特講 (和田 川瀬 日向 齋 藤)			※研究倫理 (宮坂)	※看護学研究法 (高木 戈木)
	後期		医用物理学特講演習 (和田 川瀬 日向 齋 藤)					

- 備考
1. 特定研究は1年次～3年次、その他の授業科目は1年次に実施。
 2. 特定研究は、各研究指導教員の指示により適宜設定。
 3. ※印の授業は、院生の希望等により「集中講義」開講に変更予定。
 4. 網掛は、大学院設置基準第14条の定めによる時間帯。

保健学研究科博士課程(検査技術科学分野) 授業時間割表(案)

曜日	学期	I限	II限	III限	IV限	V限	VI限	VII限		
月	前期	a								
		b								
	後期	a								
		b								
火	前期	a	生命と生活の健康科学 (佐山 村松 宮坂 関 佐井 寺尾 高橋(益))	免疫・血液病態検査科学特講 (折笠 中野 高橋(益) 成田)			生命と生活の健康科学 (佐山 村松 宮坂 関 佐井 寺尾 高橋(益))			
		b								
	後期	a							免疫・血液病態検査科学特講演習 (折笠 中野 高橋(益) 成田)	免疫・血液病態検査科学特講 (折笠 中野 高橋(益) 成田)
		b								免疫・血液病態検査科学特講演習 (折笠 中野 高橋(益) 成田)
水	前期	a	生体システム機能検査科学特講 (藤原 仲澤 渡邊 池主)				生体システム機能検査科学特講 (藤原 仲澤 渡邊 池主)			
		b								
	後期	a							生体システム機能検査科学特講演習 (藤原 仲澤 渡邊 池主)	生体システム機能検査科学特講演習 (藤原 仲澤 渡邊 池主)
		b								生体システム機能検査科学特講演習 (藤原 仲澤 渡邊 池主)
木	前期	a	保健学情報解析法 (関)	ケア技術開発法 (小坂橋 定方)	病態病理検査科学特講 (平野 岩淵)		保健学情報解析法 (関)	ケア技術開発法 (小坂橋 定方)		
		b								
	後期	a							病態病理検査科学特講演習 (平野 岩淵)	病態病理検査科学特講 (平野 岩淵)
		b								病態病理検査科学特講演習 (平野 岩淵)
金	前期	a	研究倫理 (宮坂)	看護学研究法 (高木 戈木)	ゲノム・微生物病態検査科学特講 (高橋(由) 寺尾)		研究倫理 (宮坂)	看護学研究法 (高木 戈木)		
		b								
	後期	a							ゲノム・微生物病態検査科学特講演習 (高橋(由) 寺尾)	ゲノム・微生物病態検査科学特講 (高橋(由) 寺尾)
		b								ゲノム・微生物病態検査科学特講演習 (高橋(由) 寺尾)

- 備考
1. 特定研究は1年次～3年次、その他の授業科目は1年次に実施。
 2. 特定研究は、各研究指導教員の指示により適宜設定。
 3. ※印の授業は、院生の希望等により「兼中講義」開講に変更予定。
 4. 網掛は、大学院設置基準第14条の定めによる時間帯。